

18歳意識調査 「第69回 -環境-」

日本財団 2025年6月6日

目次

調査概要	3
結果概要	4
1. 環境問題・気候変動が及ぼす影響への認識	
環境問題の学習経験	6
環境問題などの社会問題について話す頻度	7
現在の自分の生活への気候変動の影響	8
気候変動の影響を感じる事柄	10
将来の自分の生活への気候変動の影響	11
気候変動による影響への不安	13
社会での経済発展と環境配慮のバランス	14
2. 環境問題・気候変動への対策についての認識	
地球温暖化対策を進めていくべき世代/主体/国や地域	16
日本政府の気候変動対策への評価	19
日本政府が気候変動対策をリードする方法	21
3. 環境問題に配慮した取り組みについての認識	
関心のある環境問題	22
普段の生活での環境配慮取り組み	23
環境問題に関する行動や方法についての考え	30
4. 環境問題の解決についての認識	
理想のエネルギー構成	35
環境問題解決につながる商品・サービスの購買意向	38
示唆	40

第69回18歳意識調査「環境」調査概要

調査対象

全国の17歳～19歳男女

回答数

1,000 ※性年齢別の人口比率に合わせ、下記の通り割り付けを実施。

	17歳	18歳	19歳	計
男	166	168	179	513
女	158	160	169	487
計	324	328	348	1000

実施期間

2025年3月14日（金）～3月17日（月）

調査手法

インターネット調査

注記1：回答者がインターネット利用者に限られるなど、回答者に何らかの偏りが生じる可能性があり、必ずしも日本全体の17～19歳男女に妥当するものではない。

注記2：本編の図表の数値は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも100%とはならない。

第68回18歳意識調査「環境」 結果概要

1 気候変動による 影響の認識

- ① 回答者の半数以上が、気候変動によって、現在の自分の生活に影響があると回答している。具体的に影響を感じることは、「農作物の不足や価格高騰が起きているニュースを見聞きすること」などが上位。
- ② 全体で6割弱の人が、気候変動によって、将来の自分の生活に影響があると回答している。うち9割弱が、不安を感じると回答している。
- ③ 半数以上の人が、未来に向けた地球温暖化対策を先頭に立って進めていくべき世代は、現在の若者（自分たちの世代）であると回答している。

2 環境配慮行動

- ① 生活の中で行っている環境配慮の取り組みとしては、「食べ物を残さないようにする/外食の際は、店が許せば、食べ残した食事を持ち帰る」などについて、4割以上がほとんどいつも実施。
- ② 環境問題に関する行動や方法について、「環境にやさしい商品を購入する」、「環境問題に関するボランティア活動に参加する」などを「有効である」と回答した人が多い傾向。
- ③ 環境問題の解決につながる商品・サービスの価格受容性を測る質問では、電子機器（スマートフォン、タブレットなど）や電力については6割以上の人が、価格が高くなっても、環境問題の解決につながる商品・サービスを選ぶ、と回答。

3 エネルギー構成への 考え

- ① 今後の日本国内の発電方法において、もっとも理想的だと思う組み合わせとしては、再生可能エネルギーの比率が高いものを選んだ人が男女とももっとも多く、3割前後となった。
- ② 理想のエネルギーの組み合わせを選んだ背景としては、具体的な理由を選んだ人の中では「環境に良いと思うから」が男女とももっとも多く、安定供給、経済性、安全性と各要素のバランスよりも環境性を重視して理想的なエネルギー構成を選んでいる。

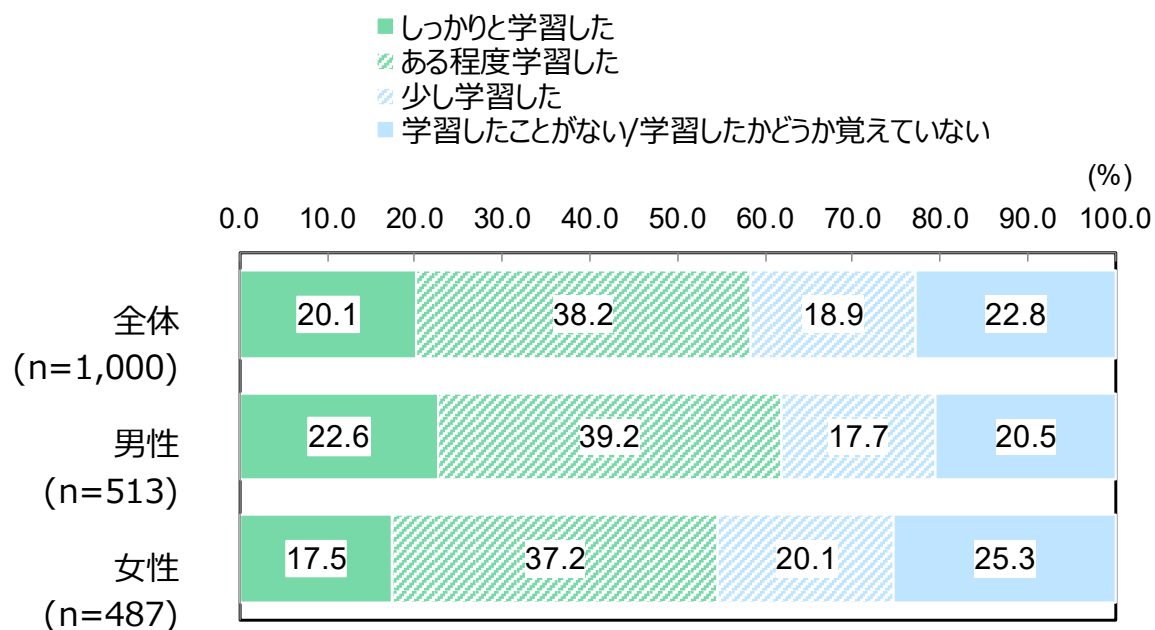
※本頁では質問や選択肢に関する表現を一部簡素化しています。詳細は各設問の結果詳細ページをご覧ください。

詳細

環境問題の学習経験

全体で8割弱の人が、学校の授業などで環境問題について学習したことがあると回答している。

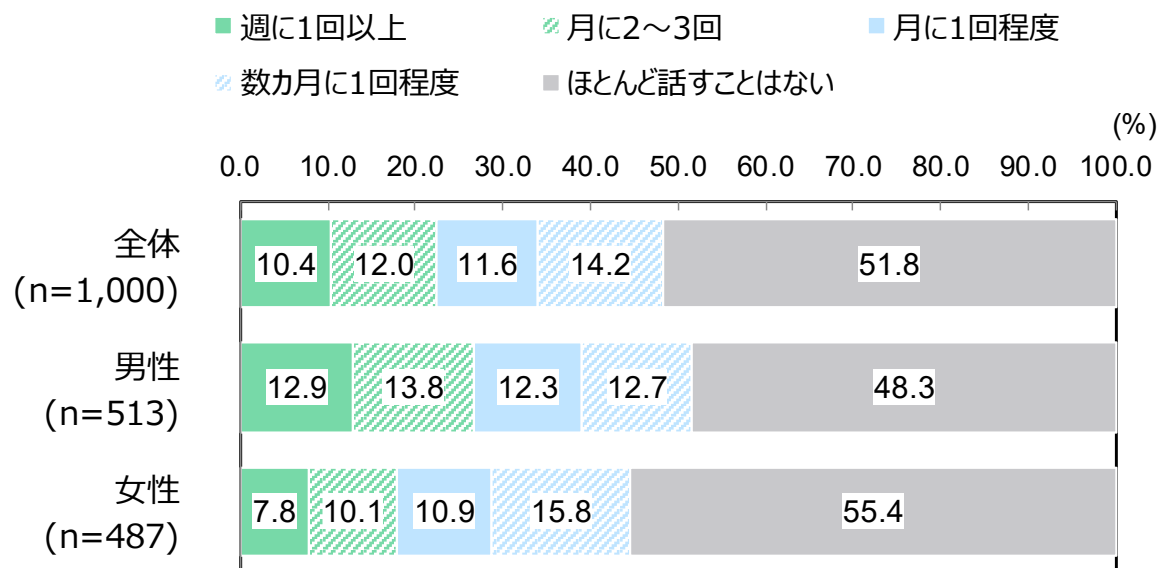
質問7：あなたは、これまで学校の授業などで環境問題についてどの程度学習した経験がありますか。（単一回答）



環境問題などの社会問題について話す頻度

全体で半数以上の人々が、普段、家族や友人と環境問題などの社会問題について「ほとんど話すことはない」と回答している。

質問9：あなたは普段、授業や仕事以外の時間に、家族や友人とどのくらいの頻度で環境問題などの社会問題について話をしますか。（単一回答）

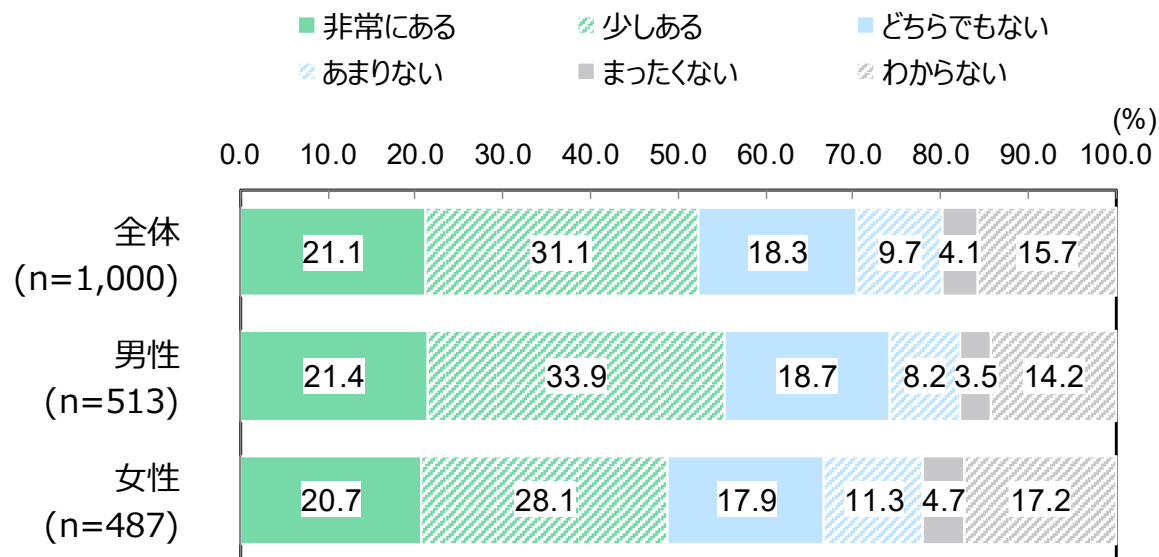


現在の自分の生活への気候変動の影響

全体で半数以上の人々が、気候変動によって、現在の自分の生活に影響が「ある」（※）と回答している。

※「非常にある」、「少しある」の合計。

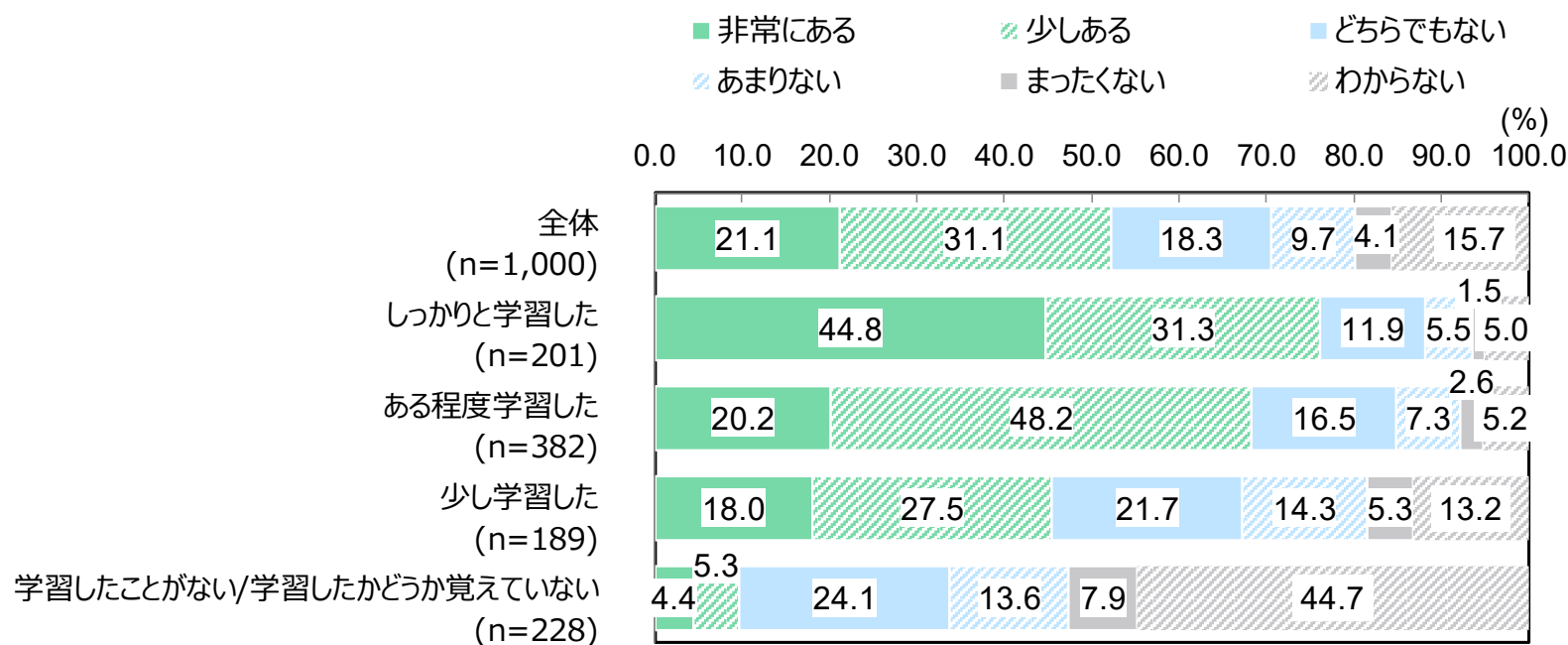
質問10：気候変動によって、現在の自分の生活にどの程度影響があると思いますか。
（単一回答）



現在の自分の生活への気候変動の影響

環境問題について学習した経験の程度別にみると、学習した経験の認識があるほど、気候変動によって、現在の自分の生活に影響が「非常にある」と回答した人の割合が多い。

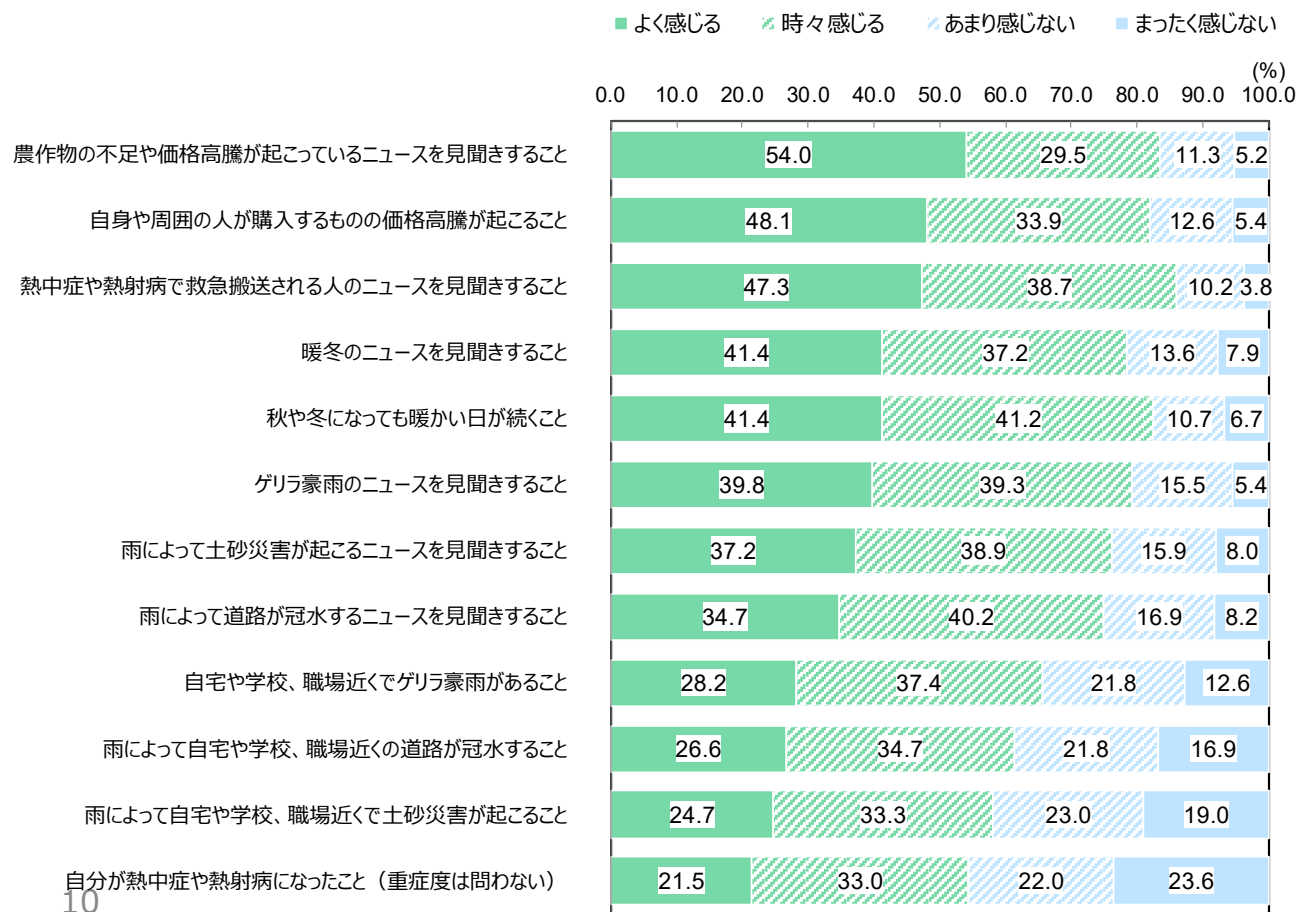
質問10：気候変動によって、現在の自分の生活にどの程度影響があると思いますか。
(単一回答)



気候変動の影響を感じる事柄

気候変動の影響を感じる事柄としては、「農作物の不足や価格高騰が起こっているニュースを見聞きすること」や「自身や周囲の人が購入するものの価格高騰が起こること」が上位。

質問11：（質問10で「非常にある」「少しある」と回答した人に対して、）あなたが生活をしている中で、どのようなことから気候変動の影響を感じますか。（各項目に対して単一回答）



※1 n=522。

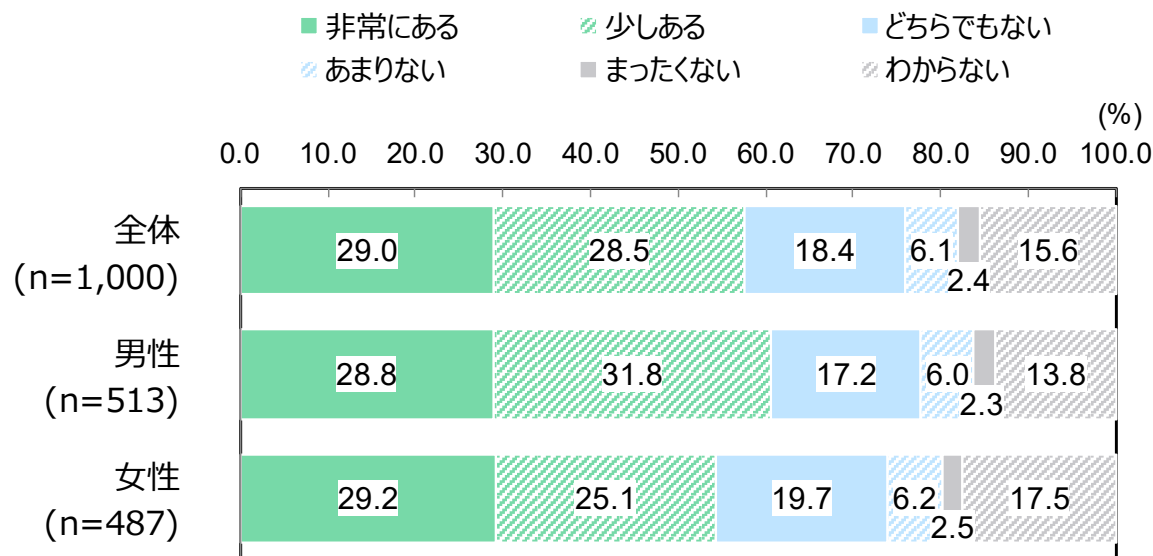
※2 全体のみ、「よく感じる」の降順で掲載。

将来の自分の生活への気候変動の影響

全体で6割弱の人が、気候変動によって、将来の自分の生活に影響が「ある」（※）と回答している。

※「非常にある」、「少しある」の合計。

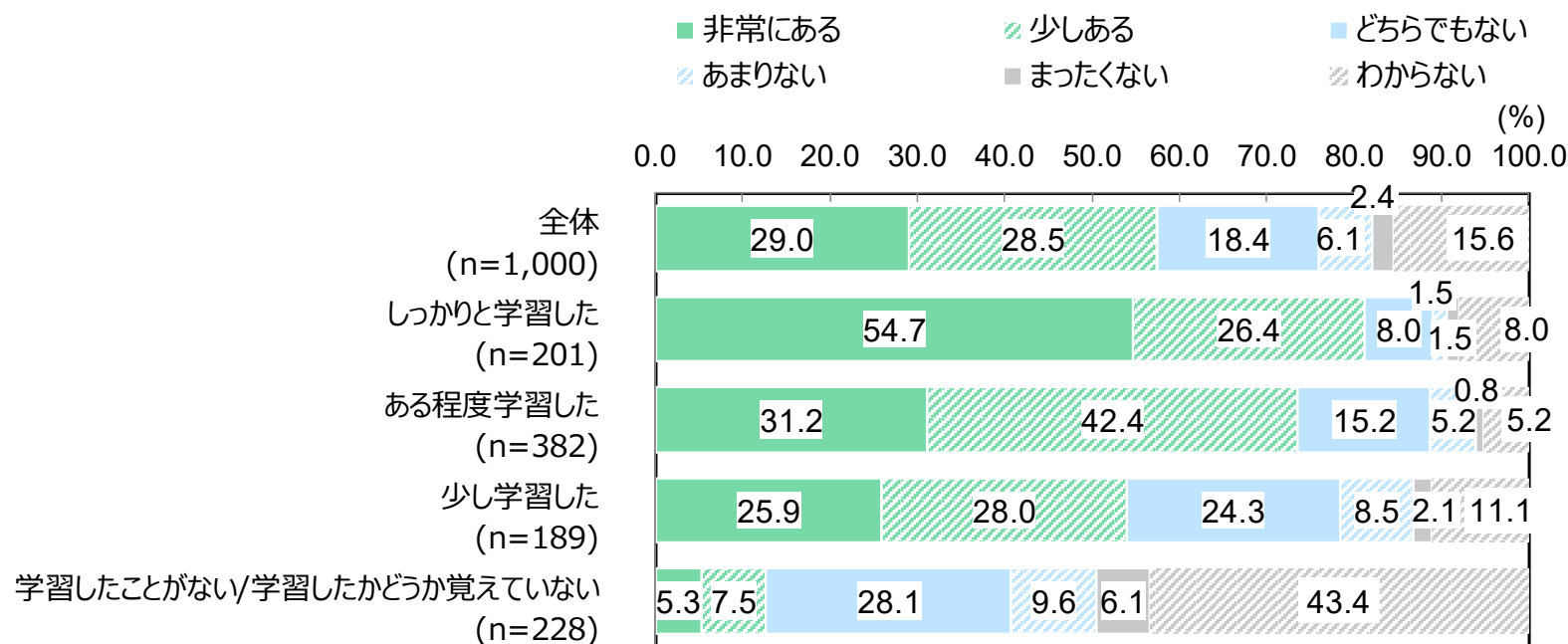
質問12：気候変動によって、将来（自分が生きている間）の自分の生活にどの程度影響があると思いますか。（単一回答）



将来の自分の生活への気候変動の影響

環境問題について学習した経験の程度別にみると、学習した経験の認識があるほど、気候変動によって、将来の自分の生活に影響が「非常にある」と回答した人の割合が多い。

質問12：気候変動によって、将来（自分が生きている間）の自分の生活にどの程度影響があると思いますか。（単一回答）



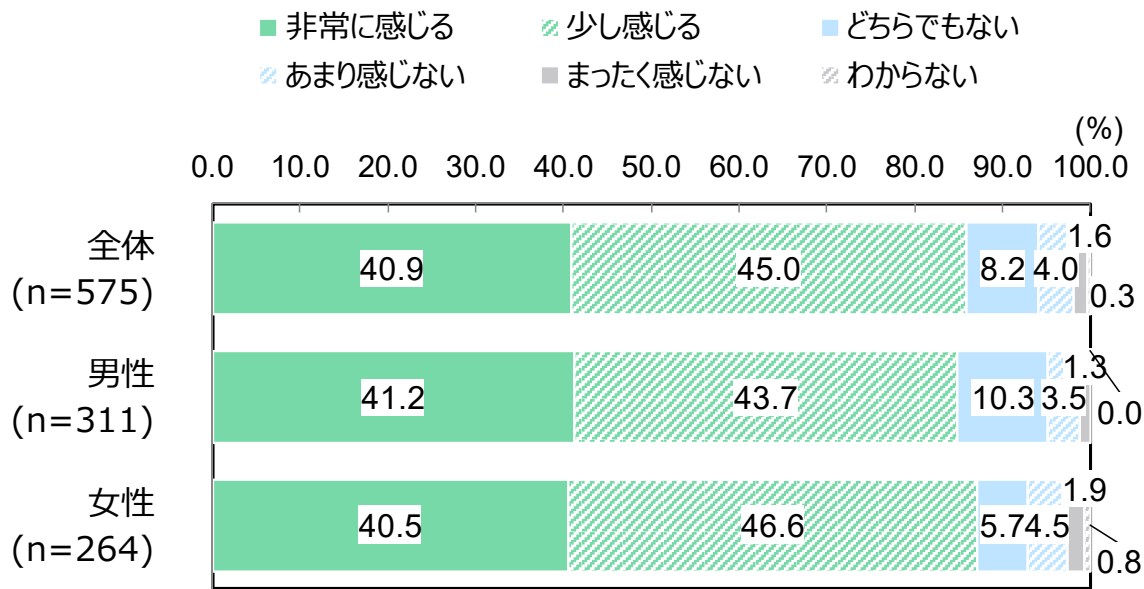
気候変動による影響への不安

気候変動によって、将来の自分の生活に影響が「ある」（※1）と回答した人のうち9割弱が、不安を「感じる」（※2）と回答している。

※1 「非常にある」、「少しある」の合計。

※2 「非常に感じる」、「少し感じる」の合計。

質問13：（前問で影響が「非常にある」または「少しある」と回答した人に対して、）気候変動による生活への影響について、あなたは今、どの程度不安を感じますか。（単一回答）

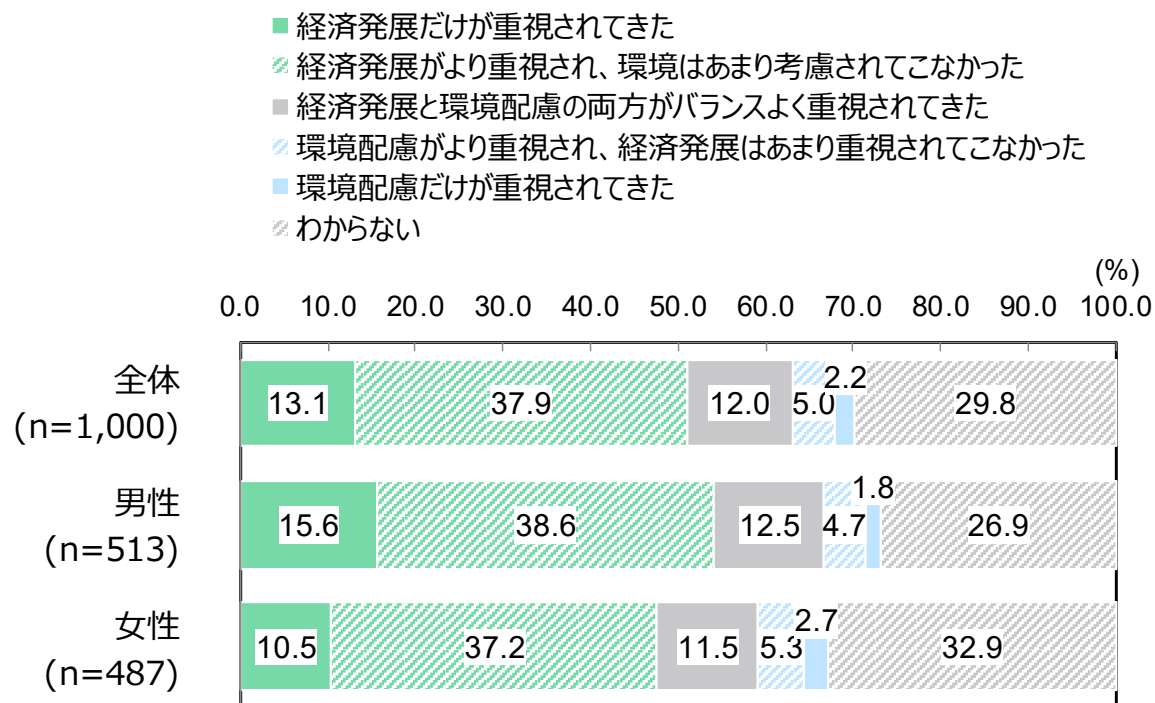


これまでの社会での経済発展と環境配慮のバランス

全体で半数以上の人々が、これまでの社会では、経済発展と環境配慮では前者が重視されてきた（※）と回答している。

※「経済発展だけが重視されてきた」、「経済発展がより重視され、環境はあまり考慮されてこなかった」の合計。

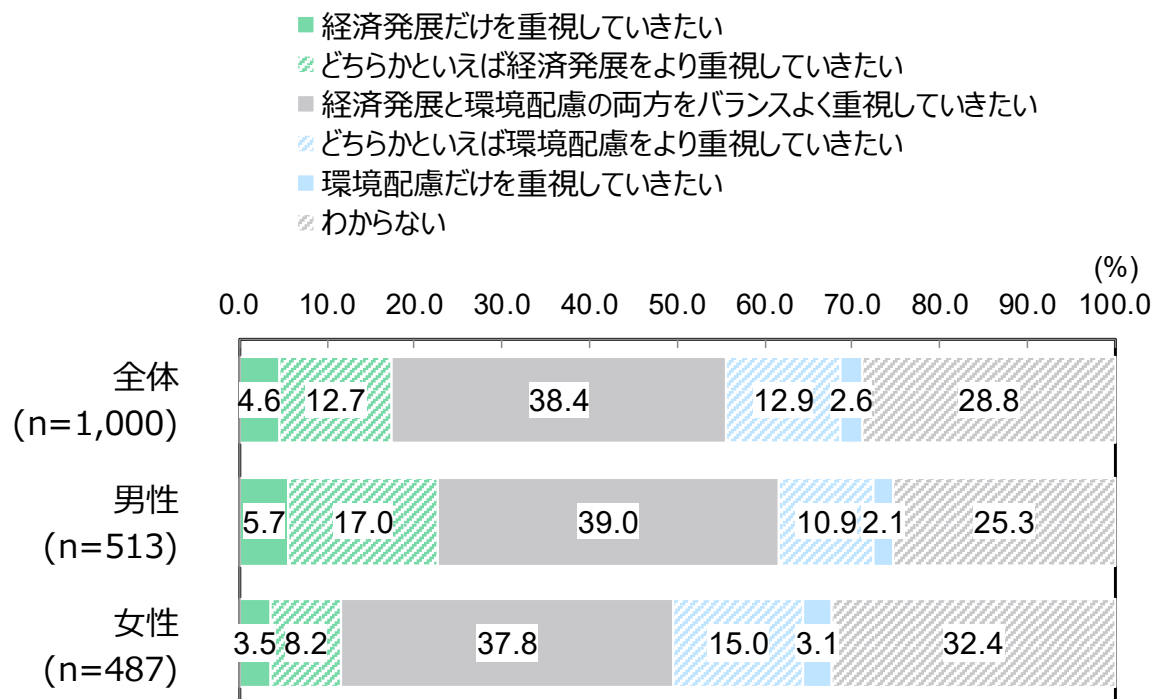
質問14：世界において、これまでの社会では、経済発展と環境配慮のどちらが重視されてきたと思いますか。（単一回答）



これからの社会での経済発展と環境配慮のバランス

全体で4割弱が、これからは「経済発展と環境配慮の両方をバランスよく重視していきたい」と回答している。

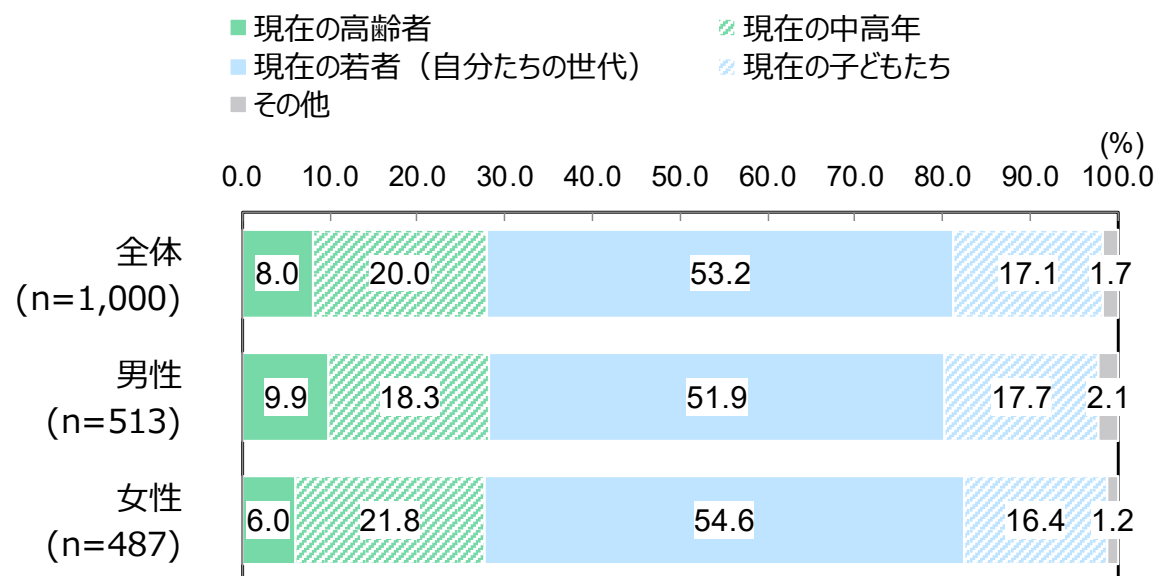
質問15：あなたはこれからの社会の一員として、世界において経済発展と環境配慮のどちらを重視していきたいと思いますか。（単一回答）



地球温暖化対策を進めていくべき世代

半数以上の人が、未来に向けた地球温暖化対策を先頭に立って進めていくべき世代は、「現在の若者（自分たちの世代）」であると回答している。

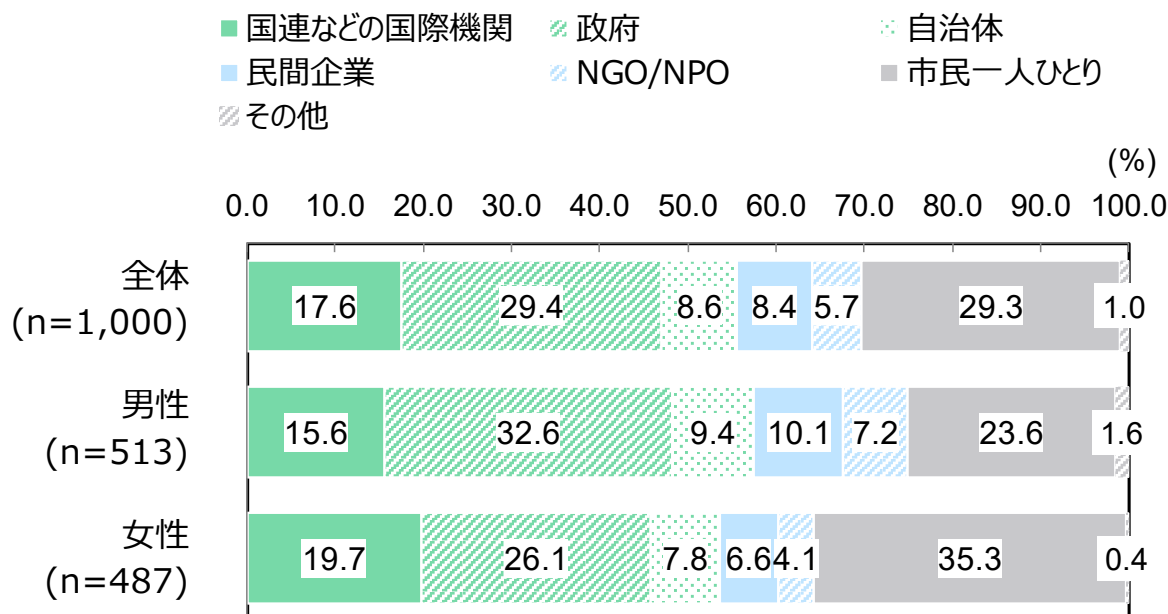
質問16：あなたは、未来に向けて地球温暖化対策を先頭に立って進めていくべき世代はどれだと思いますか。1つだけ選んでください。（単一回答）



地球温暖化対策を進めていくべき主体

全体、及び男性では、未来に向けた地球温暖化対策を先頭に立って進めていくべき主体としては、「政府」がもっとも多く、「市民一人ひとり」が続いている。他方、女性ではこれと反対の構造となっており、「市民一人ひとり」がもっとも多く、「政府」が2位。

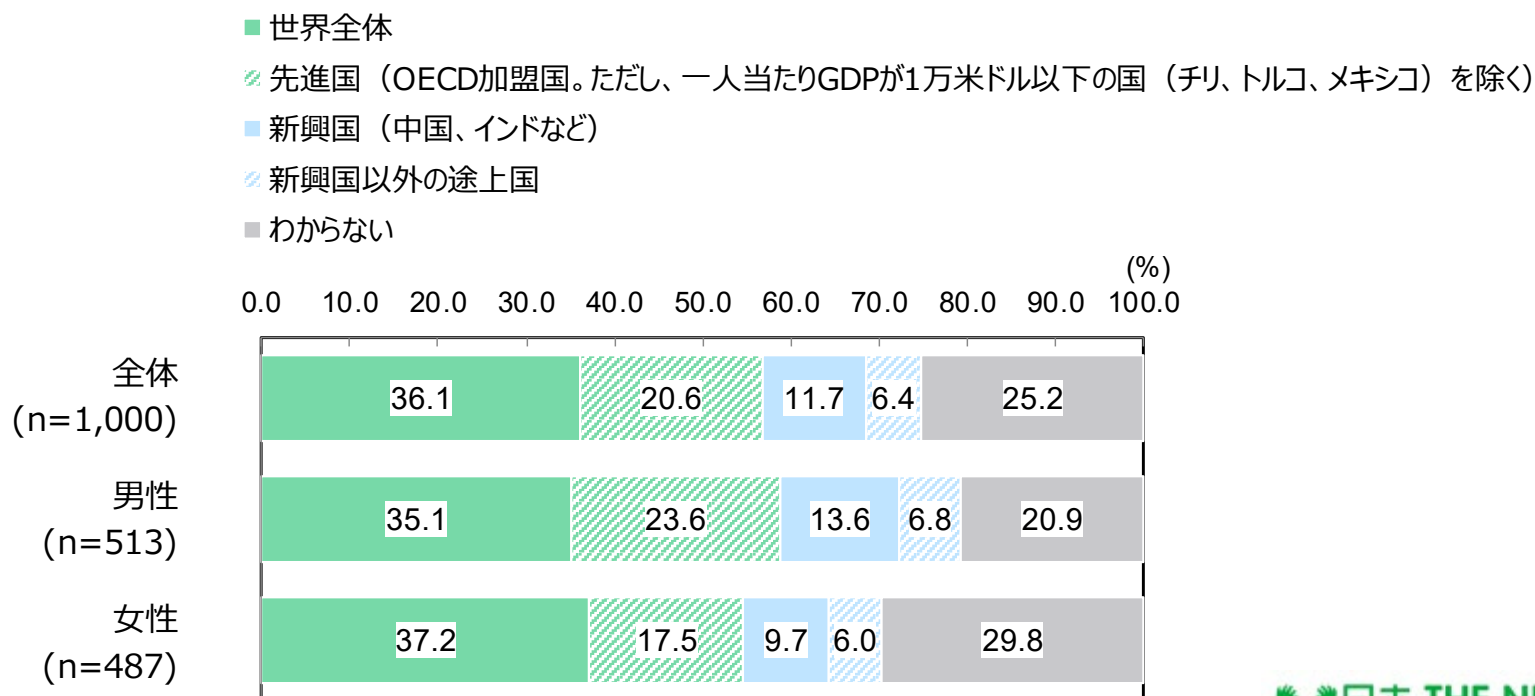
質問17：あなたは、未来に向けて地球温暖化対策を先頭に立って進めていくべき主体はどこだと思いますか。1つだけ選んでください。（単一回答）



地球温暖化対策を進めていくべき国や地域

未来に向けた地球温暖化対策を先頭に立って進めていくべき国や地域としては、「世界全体」と回答した人がもっとも多い。

質問18：あなたは、未来に向けて地球温暖化対策を先頭に立って進めていくべき国や地域はどこだと思いますか。1つだけ選んでください。（単一回答）



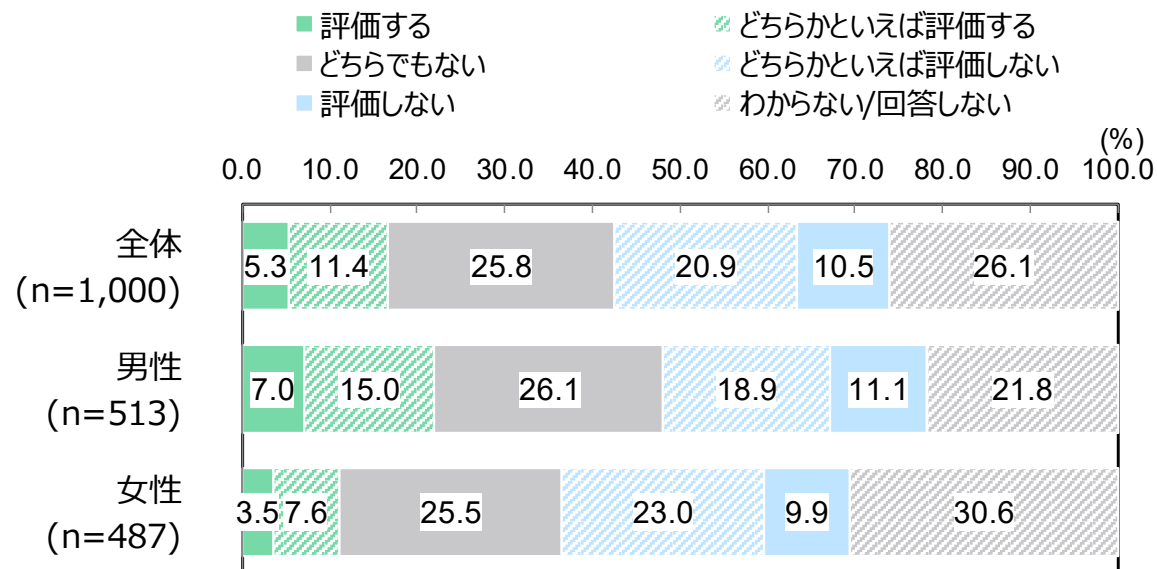
日本政府の気候変動対策への評価

日本政府の気候変動対策に対する評価としては、男女とも、「評価しない」（※1）と回答した人が「評価する」（※2）と回答した人を上回っている。

※1 「評価しない」、「どちらかといえば評価しない」の合計。

※2 「評価する」、「どちらかといえば評価する」の合計。

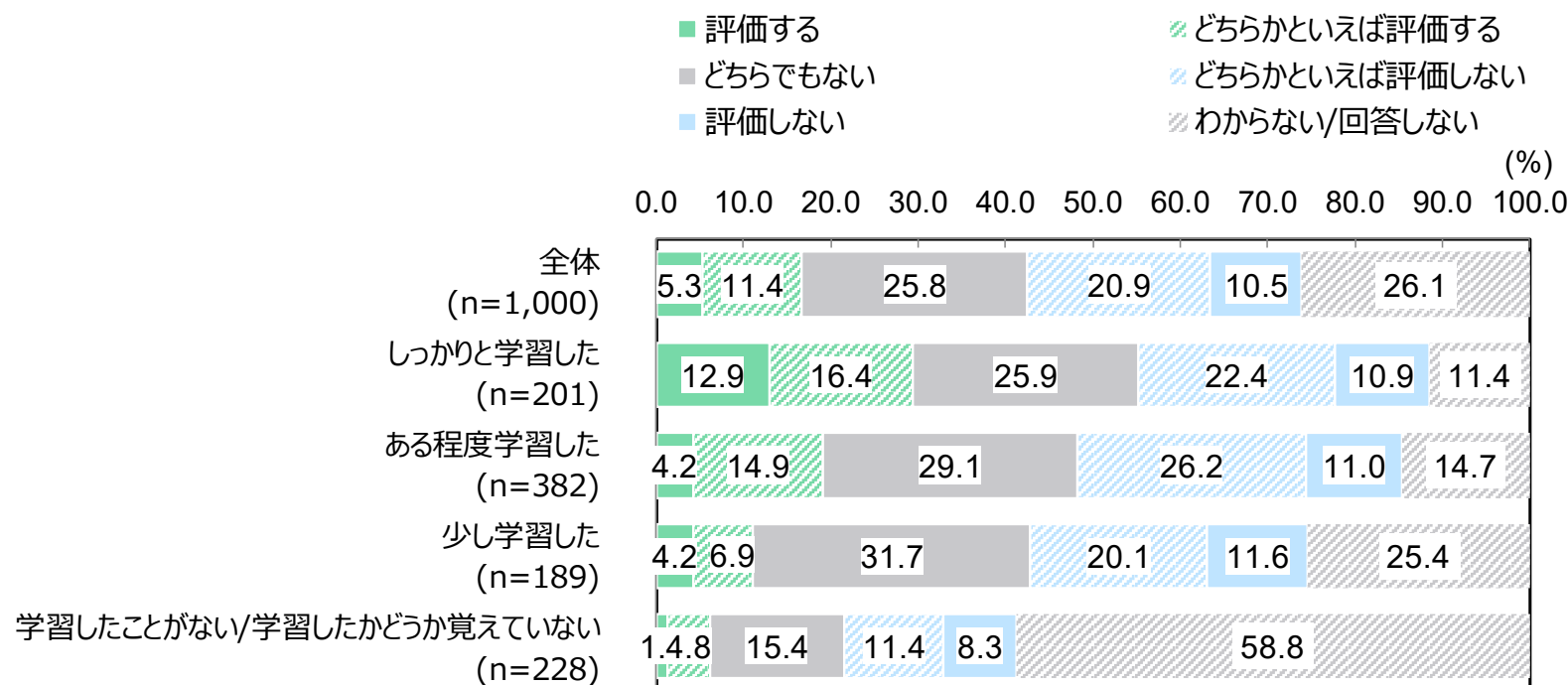
質問19：あなたは、日本政府による気候変動対策を、どのように評価しますか。
（単一回答）



日本政府の気候変動対策への評価

環境問題について学習した経験の程度別にみると、学習した経験の認識があるほど、「どちらでもない」や「わからない/回答しない」とした人が少ない。

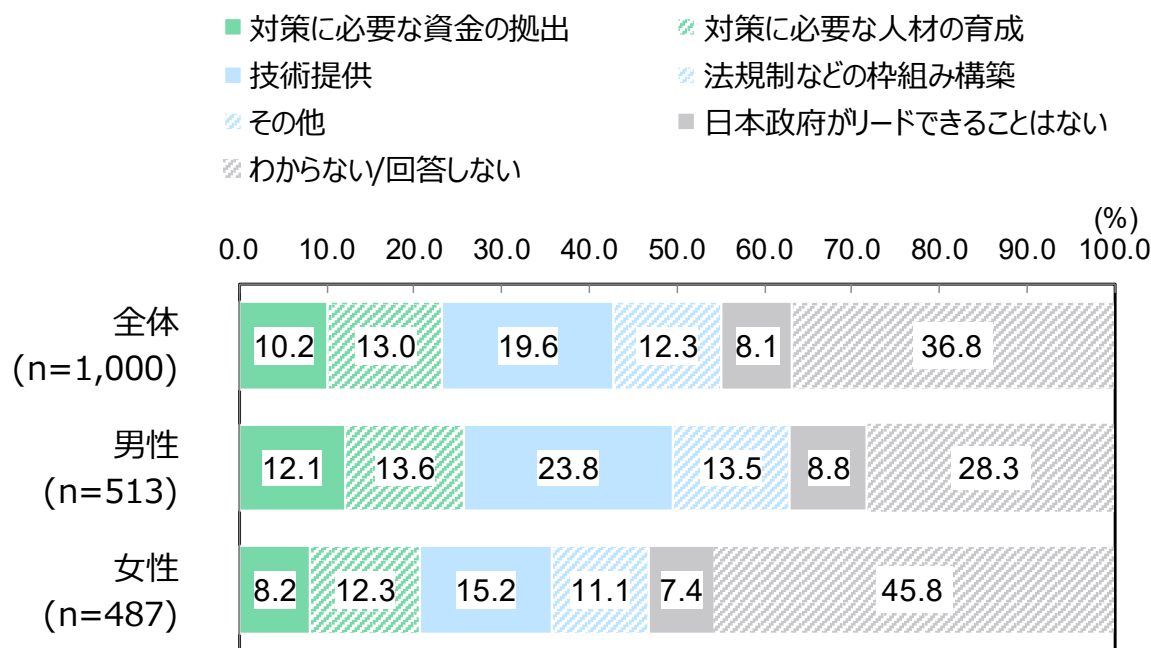
質問19：あなたは、日本政府による気候変動対策を、どのように評価しますか。
(単一回答)



日本政府が気候変動対策をリードする方法

日本政府が気候変動対策を世界でリードする方法としては、「技術提供」がもっとも多かった。

質問20：あなたは、日本政府はどのような方法で気候変動対策の分野で世界をリードできると思いますか。もっともあてはまるものを選んでください。（単一回答）

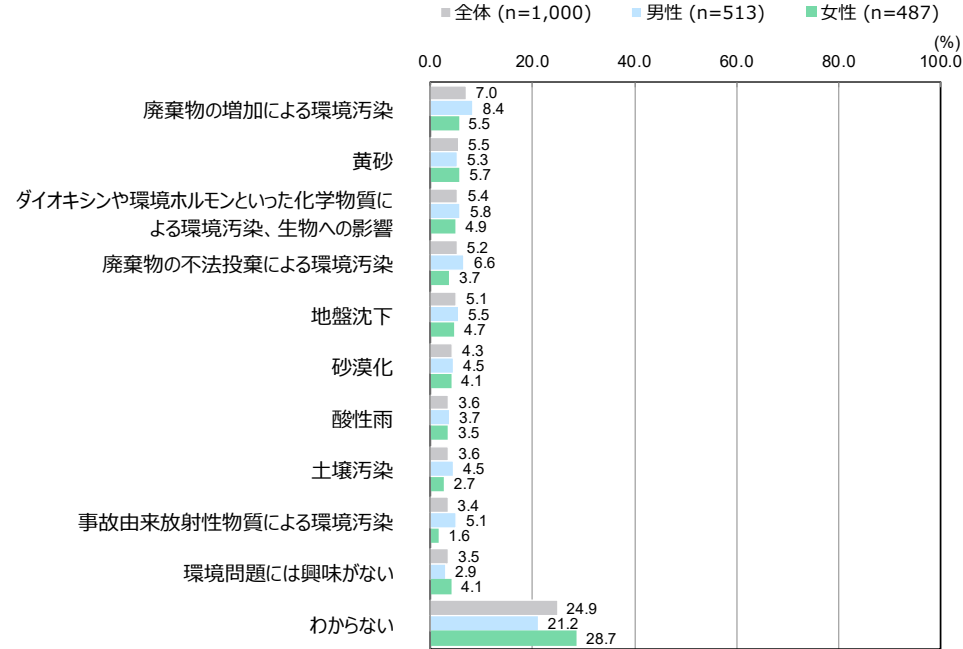
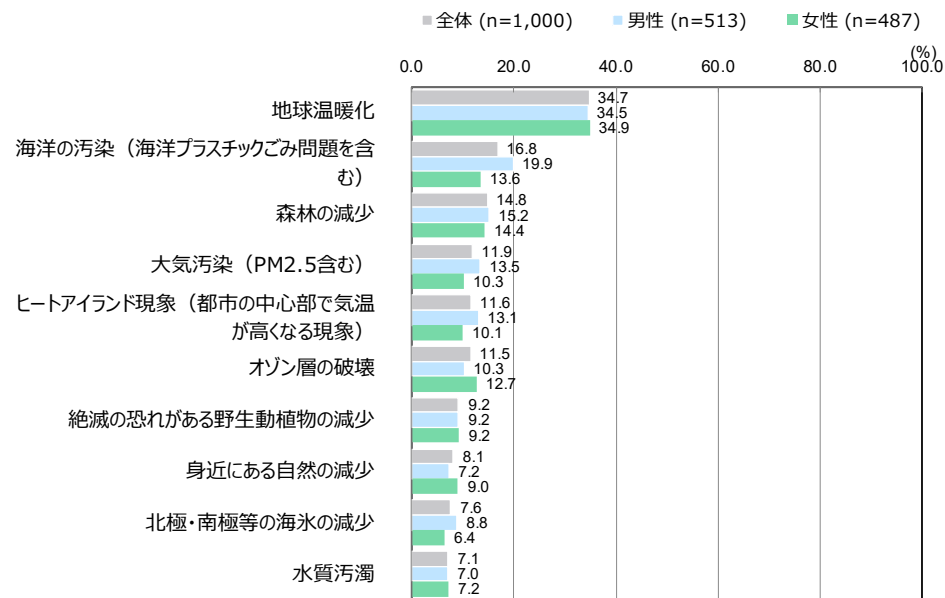


※「その他」は全体、男性、女性のいずれでも0。

関心のある環境問題

関心のある環境問題としては、「地球温暖化」がもっとも多く約3割が回答、「海洋の汚染」がこれに続いている。全体の約4分の1は「わからない」と回答した。

質問21：あなたが関心のある環境問題を次の中から最大3つまで選んでください。
(複数回答)

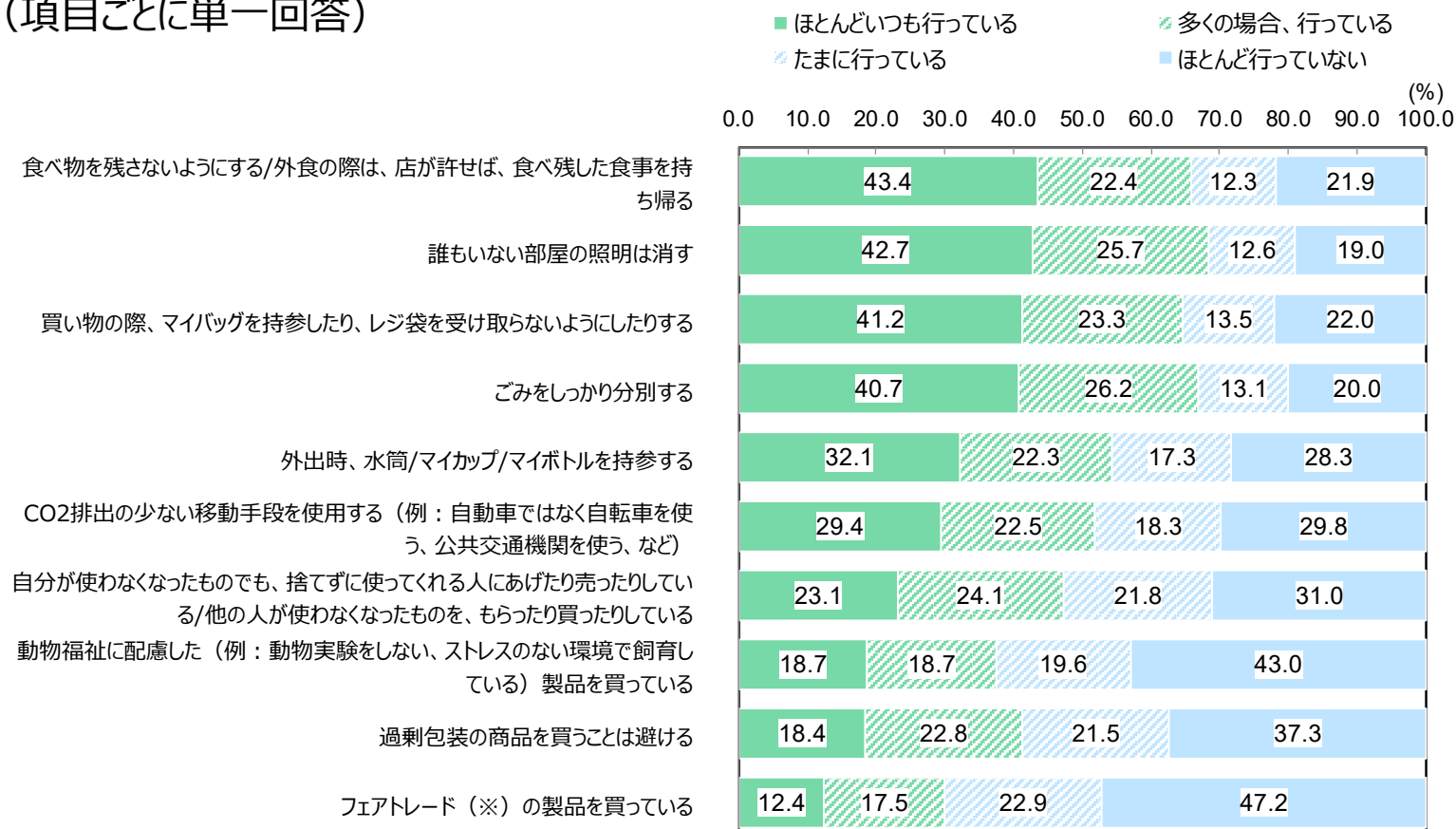


※「環境問題には興味がない」、「わからない」を除き、全体の降順で掲載。

普段の生活での環境配慮取り組み（全体）

普段の生活の中で行っている環境配慮の取り組みとして、「食べ物を残さないようにする/外食の際は、店が許せば、食べ残した食事を持ち帰る」など4項目について、4割以上が「ほとんどいつも行っている」と回答。

質問22：以下について、あなたの普段の生活の中でどの程度行っているかを選んでください。
（項目ごとに単一回答）

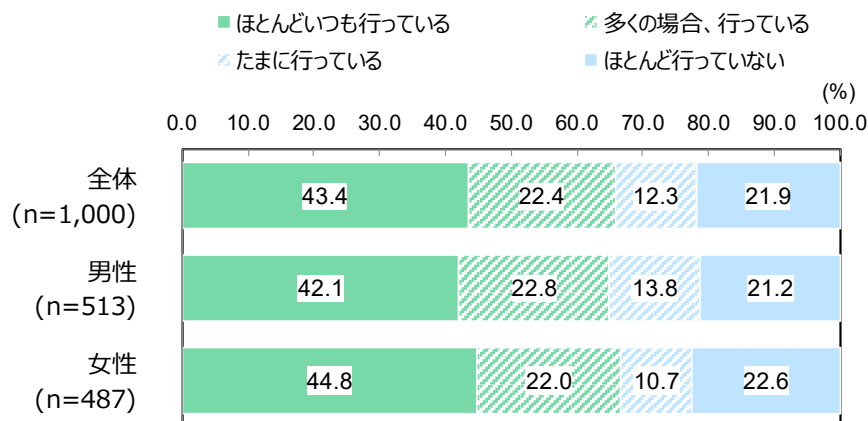


※1 開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」のこと。

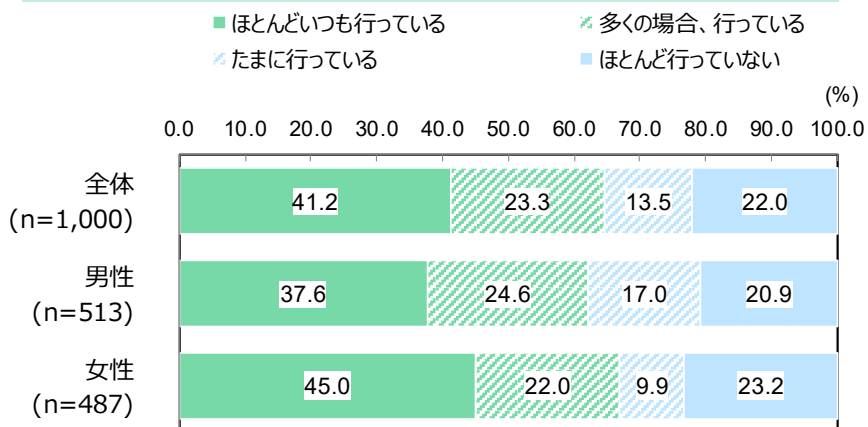
※2 全体のみ、「ほとんどいつも行っている」の降順で掲載。

普段の生活での環境配慮取り組み（詳細）

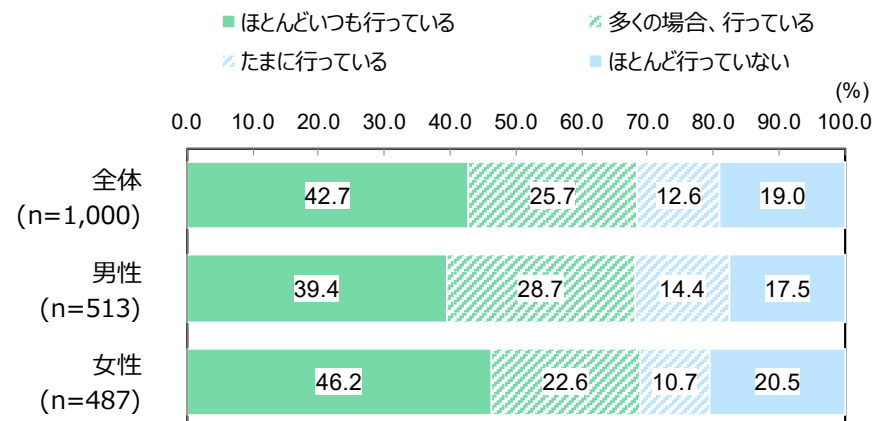
食べ物を残さないようにする/外食の際は、店が許せば、食べ残した食事を持ち帰る



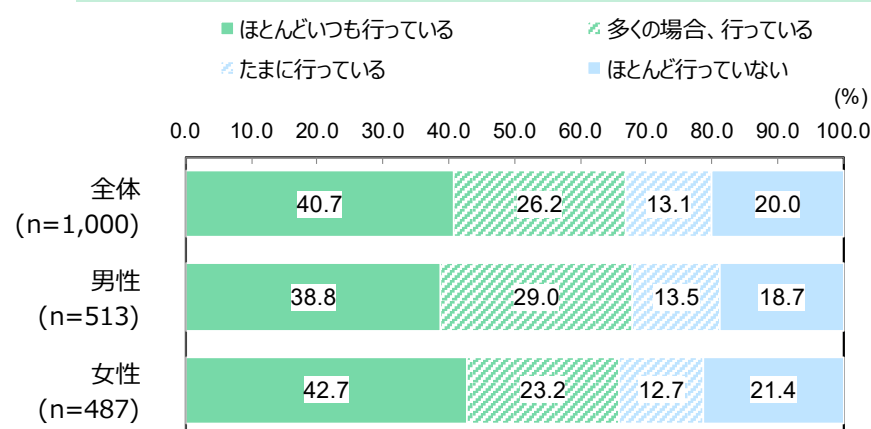
買い物の際、マイバッグを持参したり、レジ袋を受け取らないようにしたりする



誰もいない部屋の照明は消す

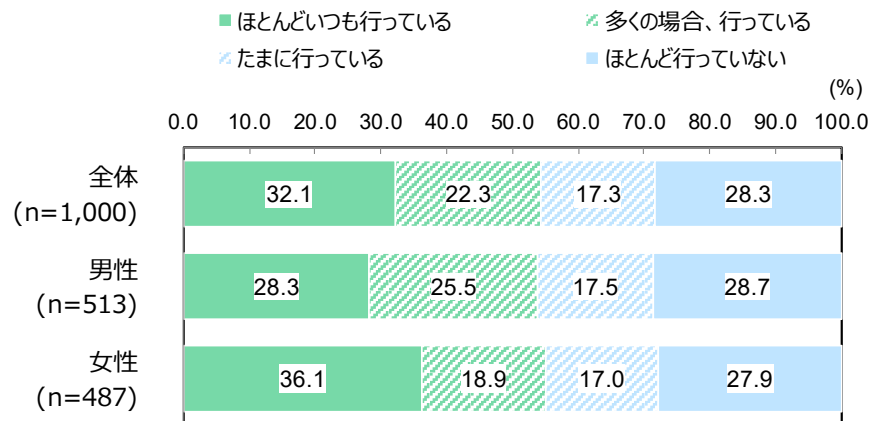


ごみをしっかり分別する

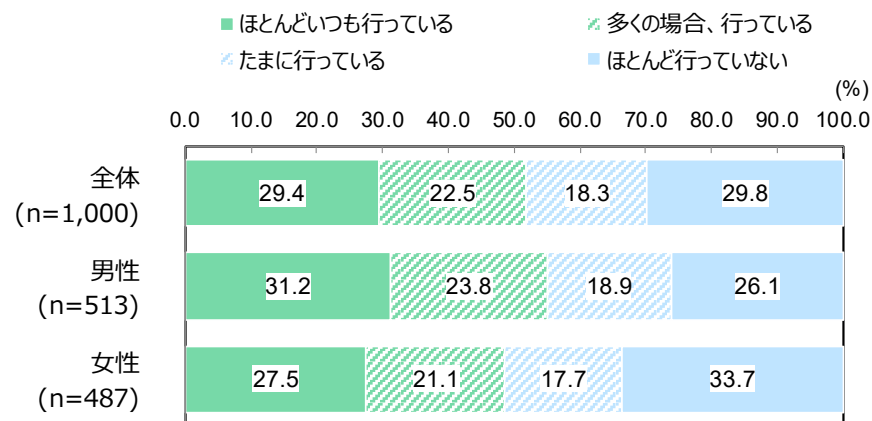


普段の生活での環境配慮取り組み（詳細）

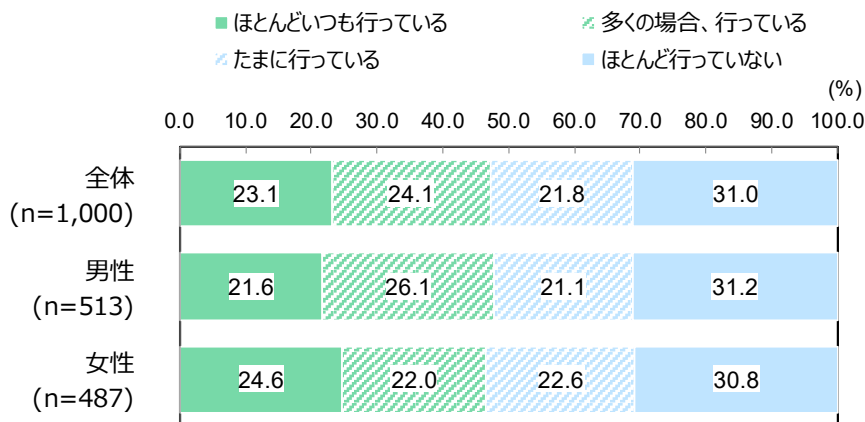
外出時、水筒/マイカップ/マイボトルを持参する



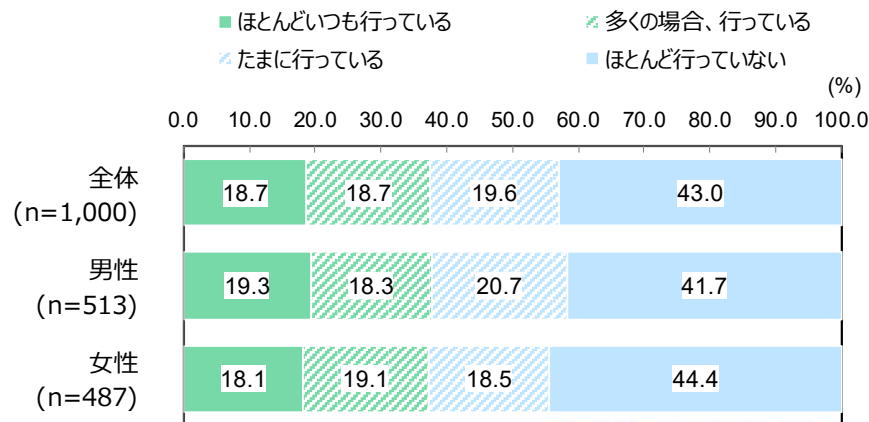
CO2排出の少ない移動手段を使用する（例：自動車ではなく自転車を使う、公共交通機関を使う、など）



自分が使わなくなったものでも、捨てずに使ってくれる人にあげたり売ったりしている/他の人が使わなくなったものを、もらったり買ったりしている

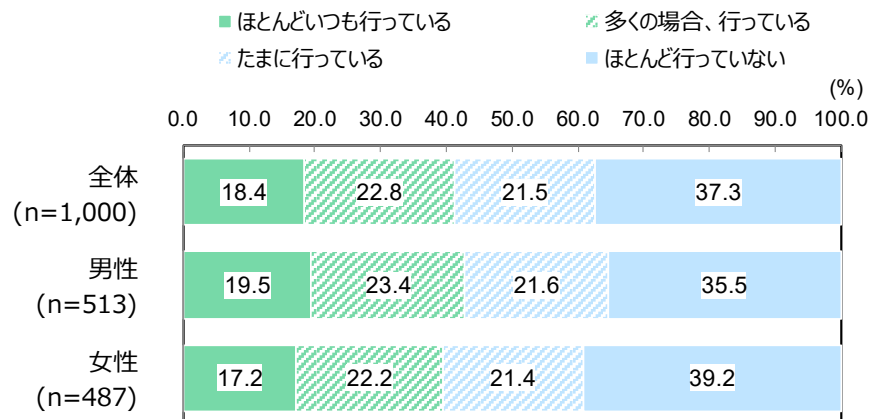


動物福祉に配慮した（例：動物実験をしない、ストレスのない環境で飼育している）製品を買っている

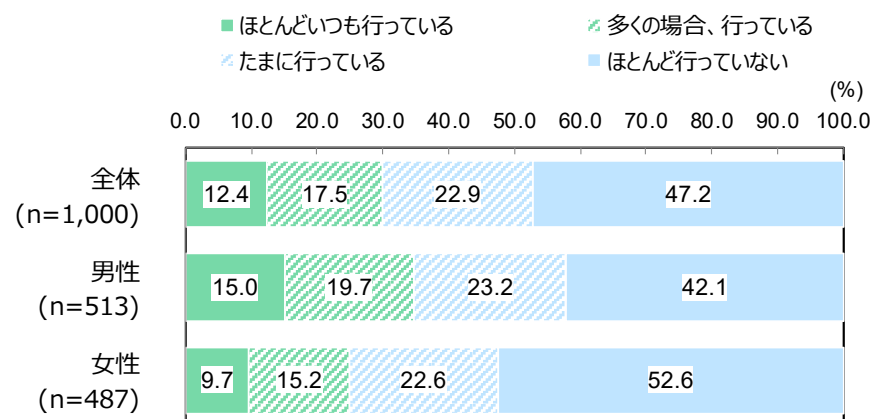


普段の生活での環境配慮取り組み（詳細）

過剰包装の商品を買うことは避ける



フェアトレード（※）の製品を買っている



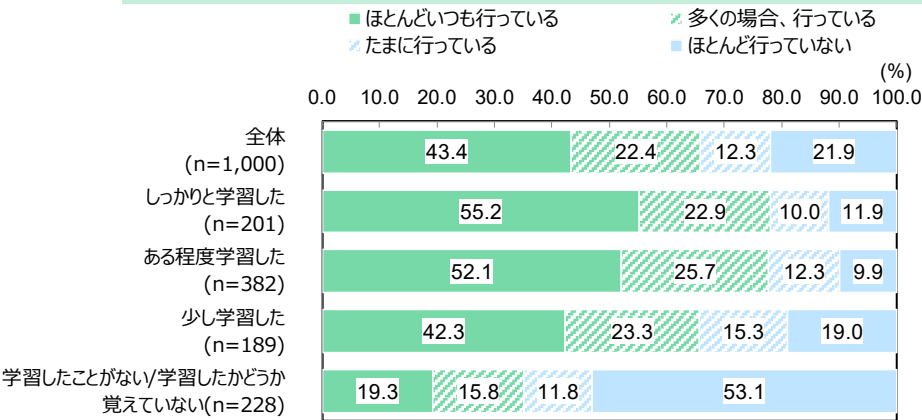
※開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」のこと

普段の生活での環境配慮取り組み（詳細）

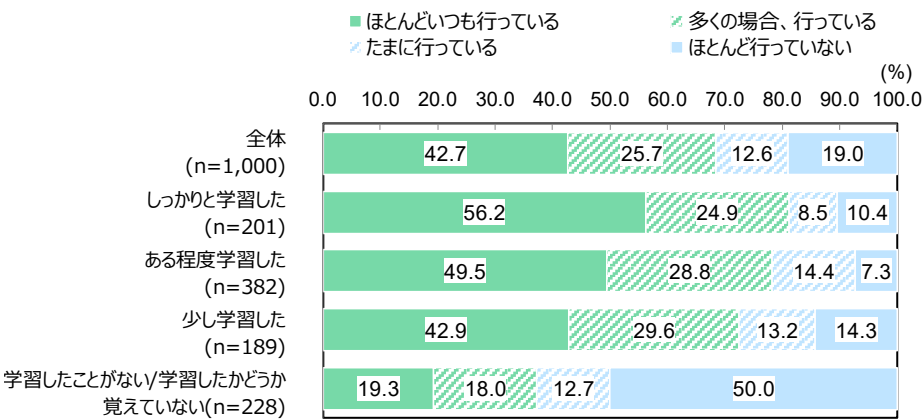
環境問題について学習した経験の程度別にみると、学習した経験の認識があるほど、環境配慮取り組みを行う傾向にある。

質問22：以下について、あなたの普段の生活の中でどの程度行っているかを選んでください。
（項目ごとに単一回答）

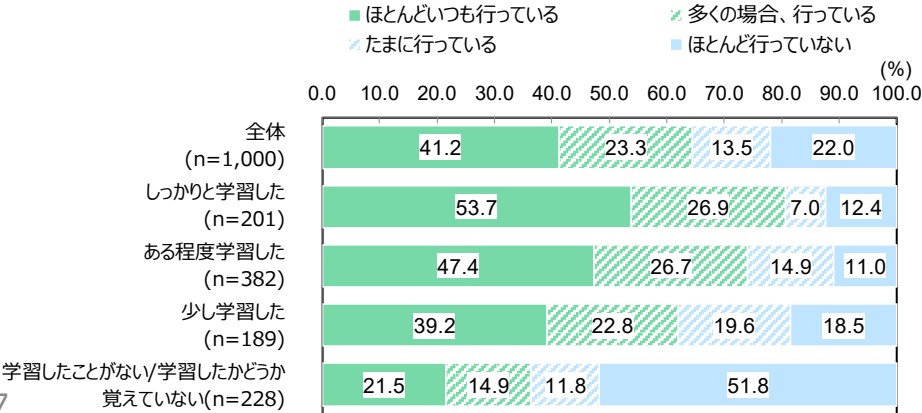
食べ物を残さないようにする/外食の際は、店が許せば、食べ残した食事を持ち帰る



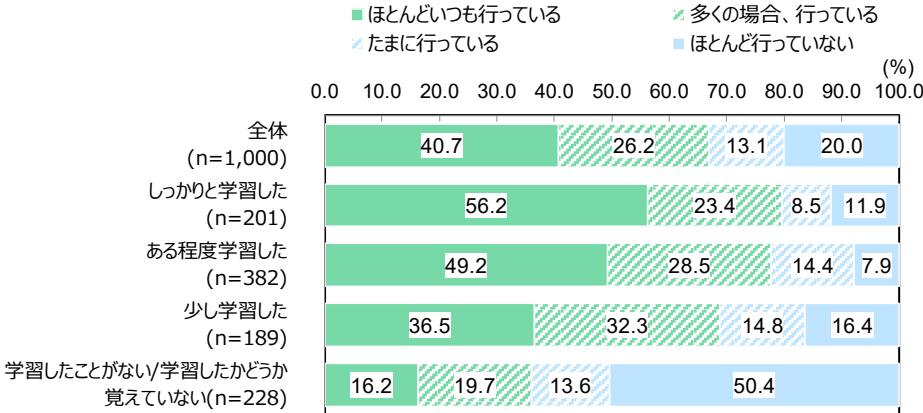
誰もいない部屋の照明は消す



買い物の際、マイバッグを持参したり、レジ袋を受け取らないようにしたりする

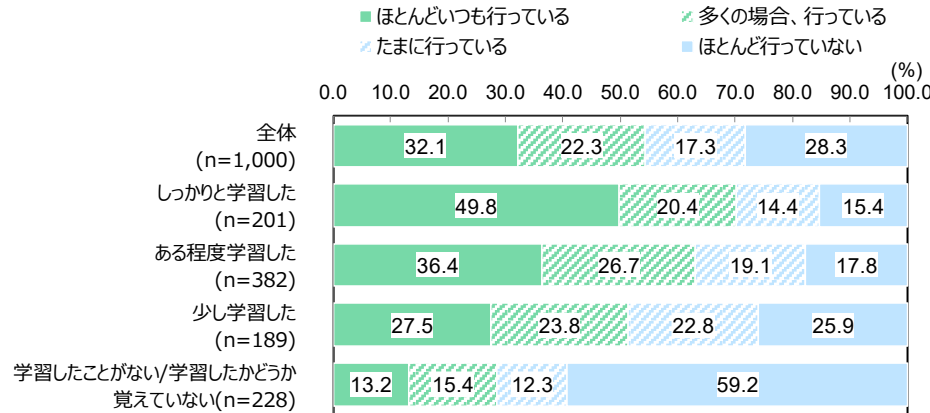


ごみをしっかり分別する

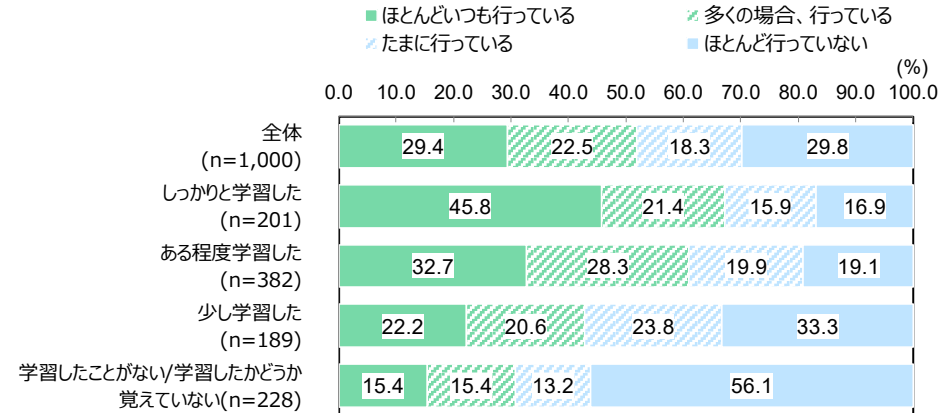


普段の生活での環境配慮取り組み（詳細）

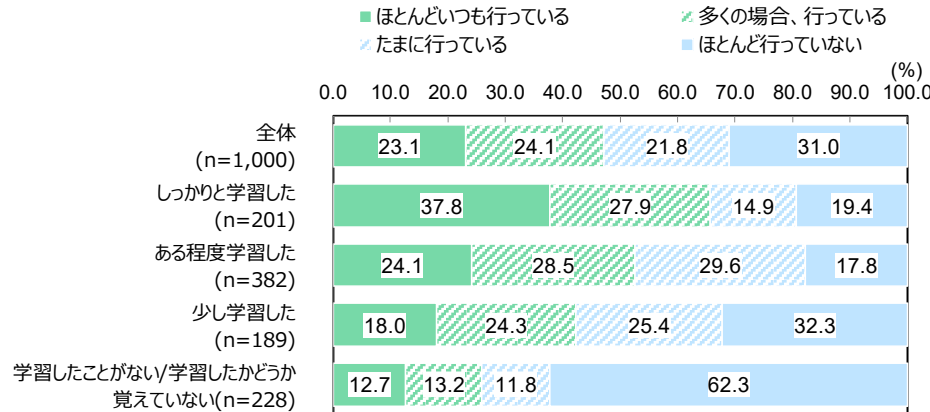
外出時、水筒/マイカップ/マイボトルを持参する



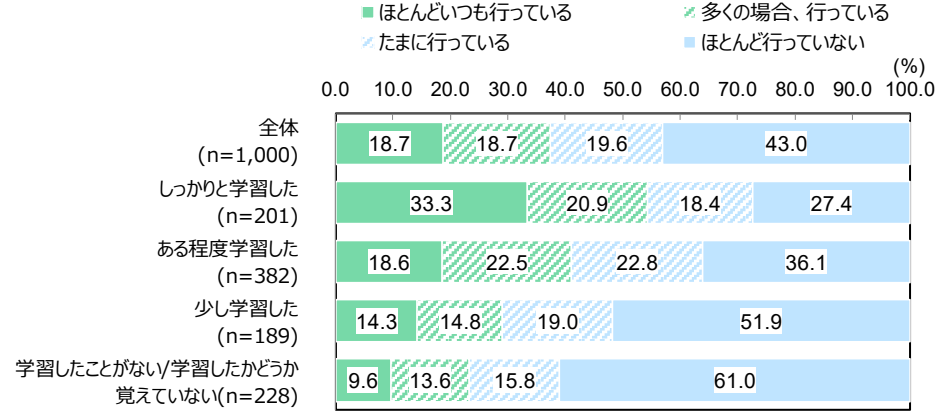
CO2排出の少ない移動手段を使用する（例：自動車ではなく自転車を使う、公共交通機関を使う、など）



自分が使わなくなったものでも、捨てずに使ってくれる人にあげたり売ったりしている/他の人が使わなくなったものを、もらったり買ったりしている

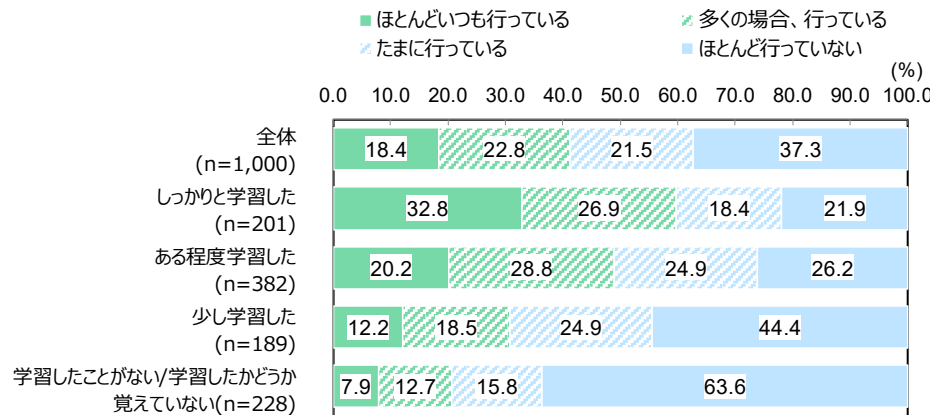


動物福祉に配慮した（例：動物実験をしない、ストレスのない環境で飼育している）製品を買っている

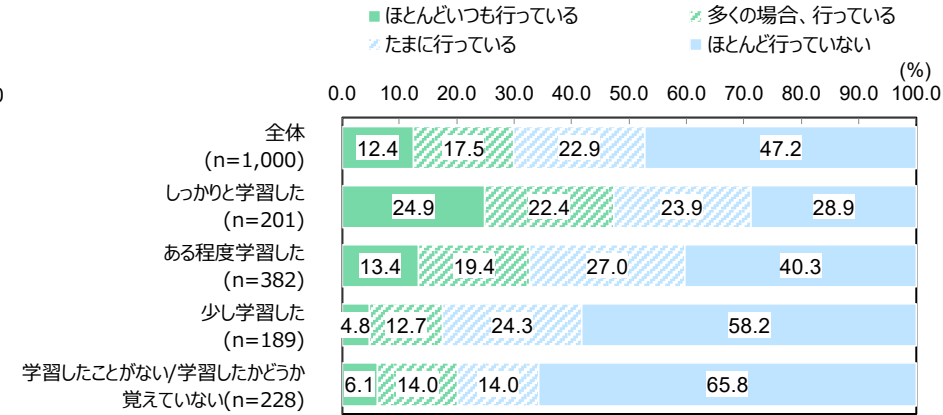


普段の生活での環境配慮取り組み（詳細）

過剰包装の商品を買うことは避ける



フェアトレード（※）の製品を買っている



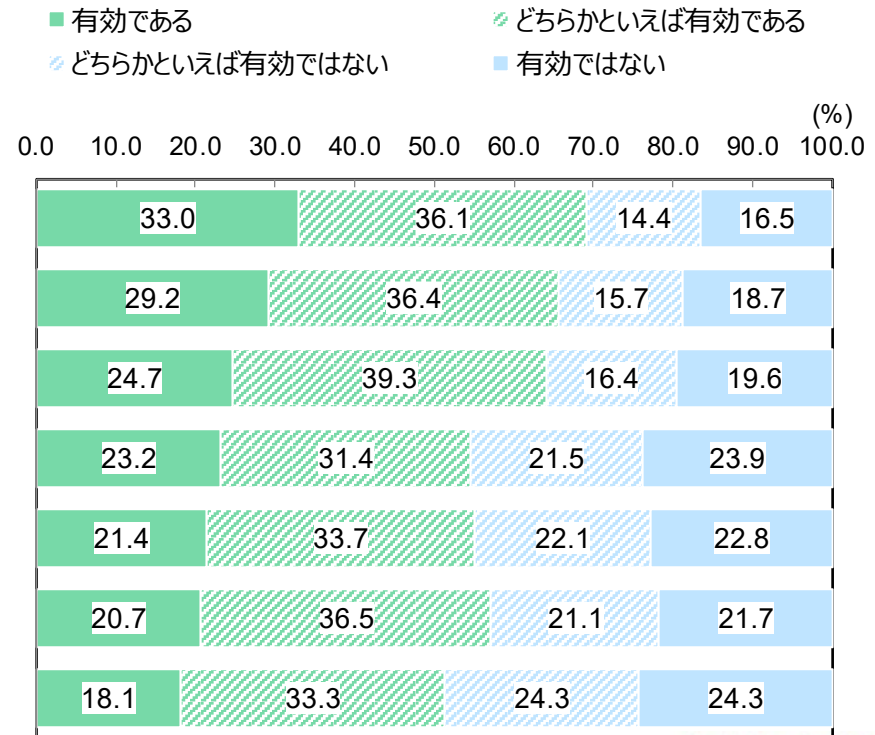
※開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」のこと

環境問題に関する行動や方法 についての考え（全体）

環境問題に関する行動や方法について、「環境にやさしい商品を購入する」、「環境問題に関するボランティア活動に参加する」などの行動を「有効である」と回答した人が多い傾向。他方、「環境問題への対策を訴えるデモの主催・参加など、直接行動する」など4項目については、「有効ではない」と回答した人が4割を超えている。

※「有効ではない」、「どちらかといえば有効ではない」の合計。

質問23：次に示す環境問題に関する行動や方法について、あなたの考えを教えてください。
（項目ごとに単一回答）



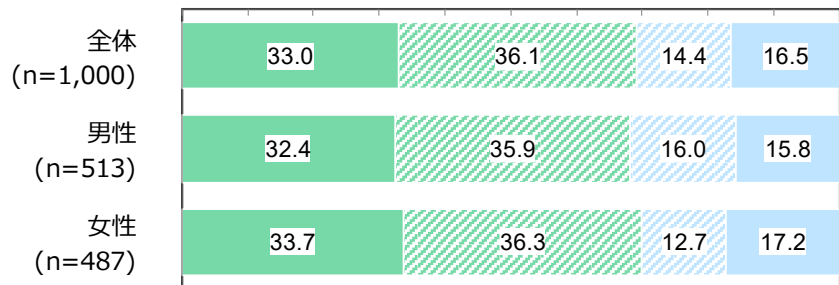
※全体のみ、「有効である」の降順で掲載。

環境問題に関する行動や方法 についての考え（詳細）

環境にやさしい商品を購入する

■ 有効である ▨ どちらかといえば有効である
▩ どちらかといえば有効ではない ■ 有効ではない

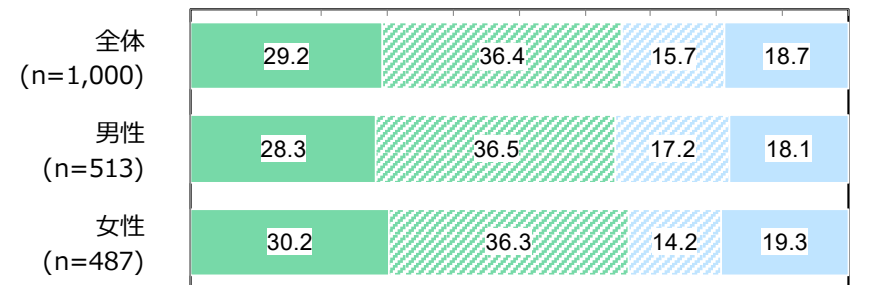
(%)



環境問題に関するボランティア活動に参加する

■ 有効である ▨ どちらかといえば有効である
▩ どちらかといえば有効ではない ■ 有効ではない

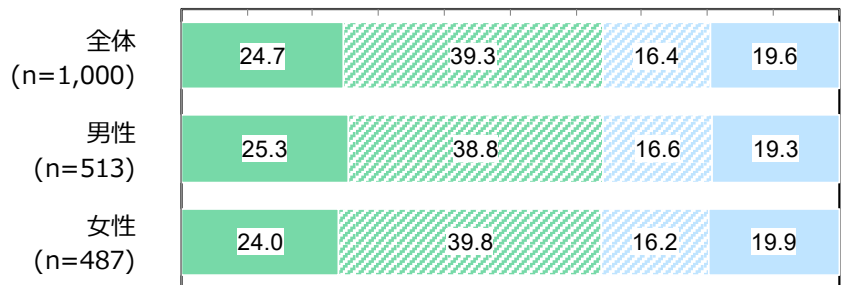
(%)



環境問題の解決に取り組むNPOや市民団体に寄付を行う

■ 有効である ▨ どちらかといえば有効である
▩ どちらかといえば有効ではない ■ 有効ではない

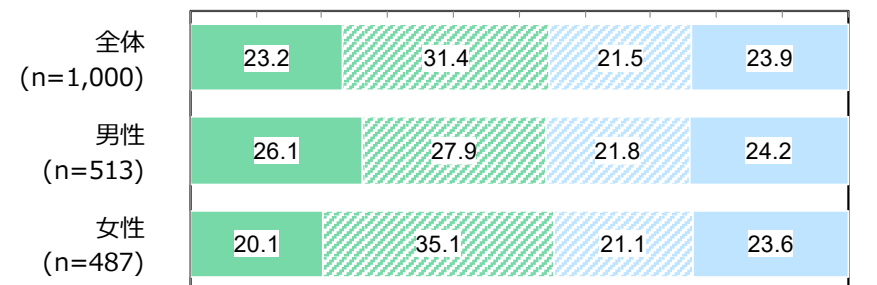
(%)



環境問題を引き起こしうる企業の商品について不買運動に参加する（対象商品を買わないようにする）

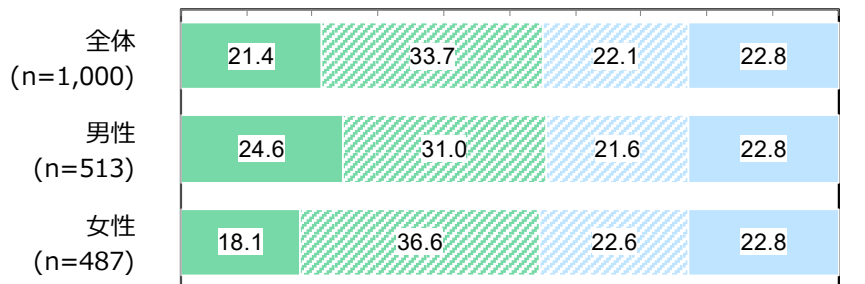
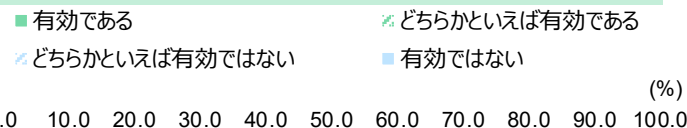
■ 有効である ▨ どちらかといえば有効である
▩ どちらかといえば有効ではない ■ 有効ではない

(%)

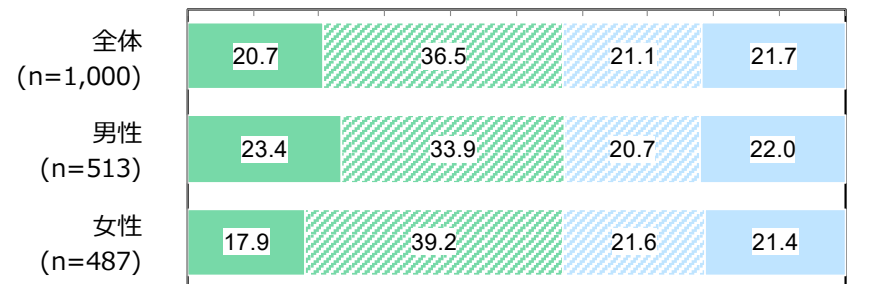
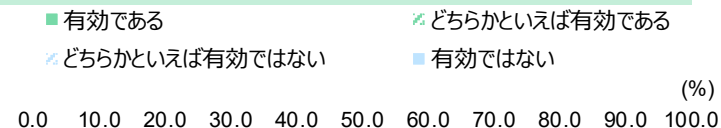


環境問題に関する行動や方法 についての考え（詳細）

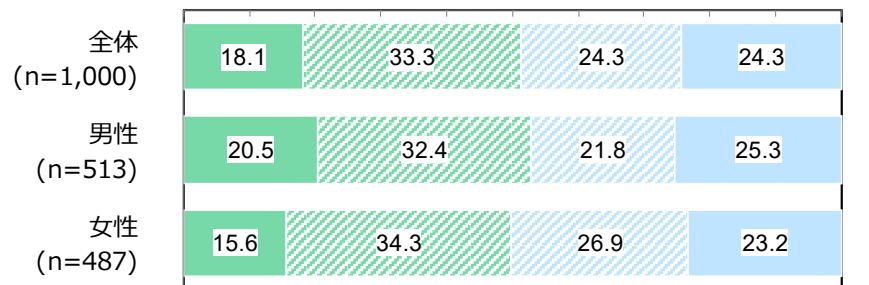
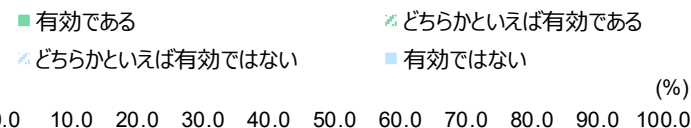
環境問題への対策を訴えるために新聞等に投書する、またはSNSで意見を発信・リツイートする



環境問題への対策を訴える署名活動に参加する

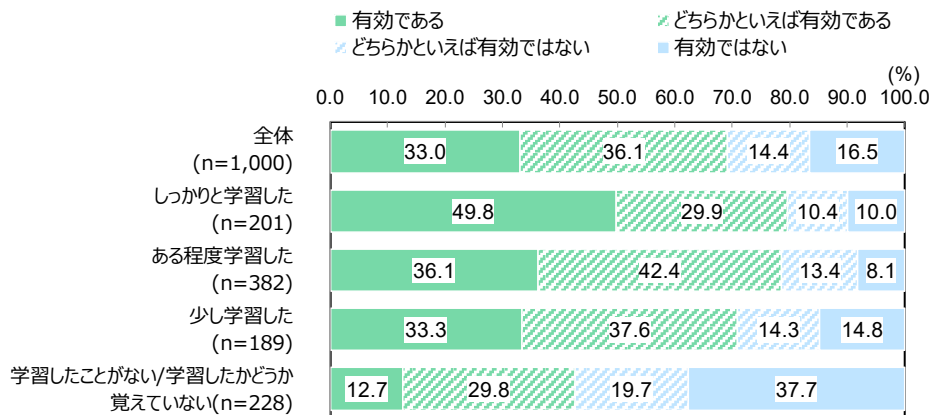


環境問題への対策を訴えるデモの主催・参加など、直接行動する

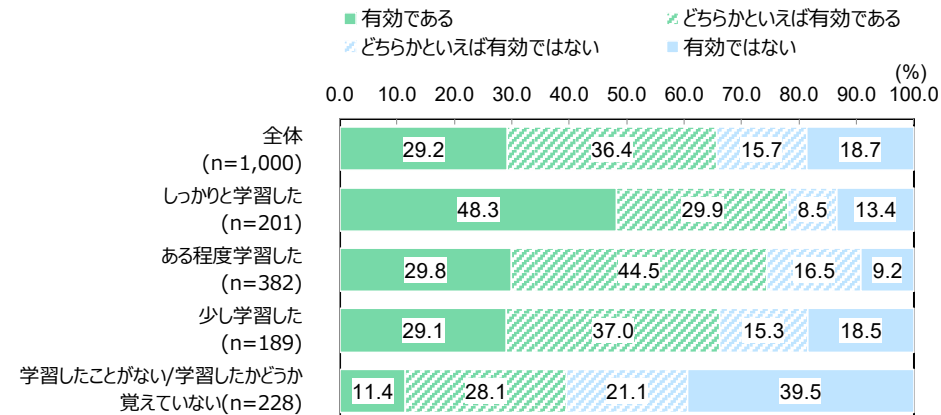


環境問題に関する行動や方法 についての考え（詳細）

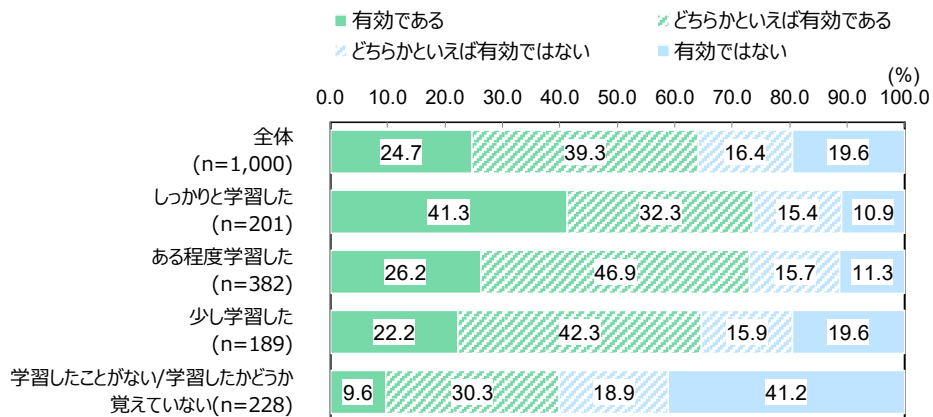
環境にやさしい商品を購入する



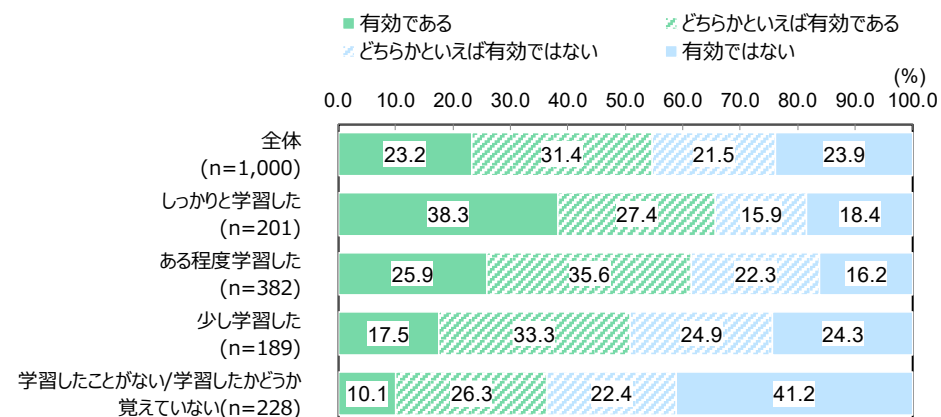
環境問題に関するボランティア活動に参加する



環境問題の解決に取り組むNPOや市民団体に寄付を行う

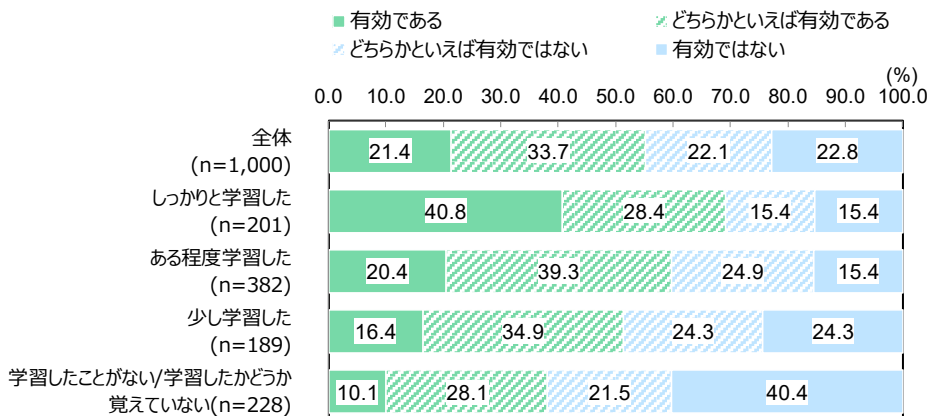


環境問題を引き起こしている企業の商品について不買運動に参加する（対象商品を買わないようにする）

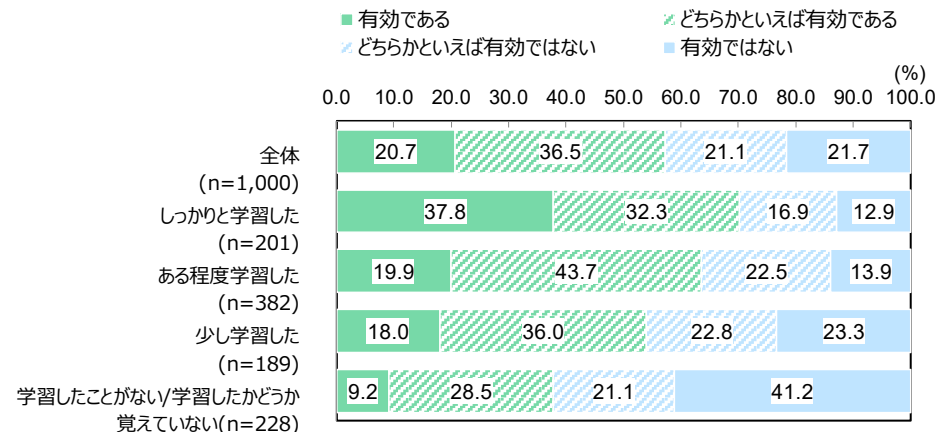


環境問題に関する行動や方法 についての考え（詳細）

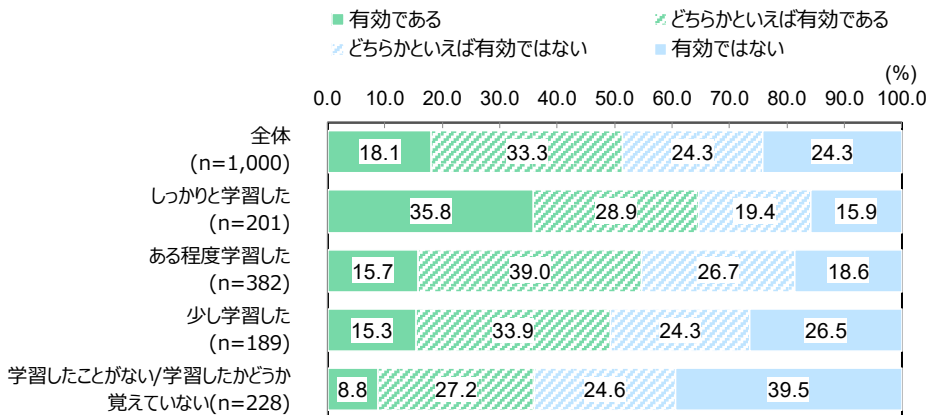
環境問題への対策を訴えるために新聞等に投書する、またはSNSで意見を発信・リツイートする



環境問題への対策を訴える署名活動に参加する

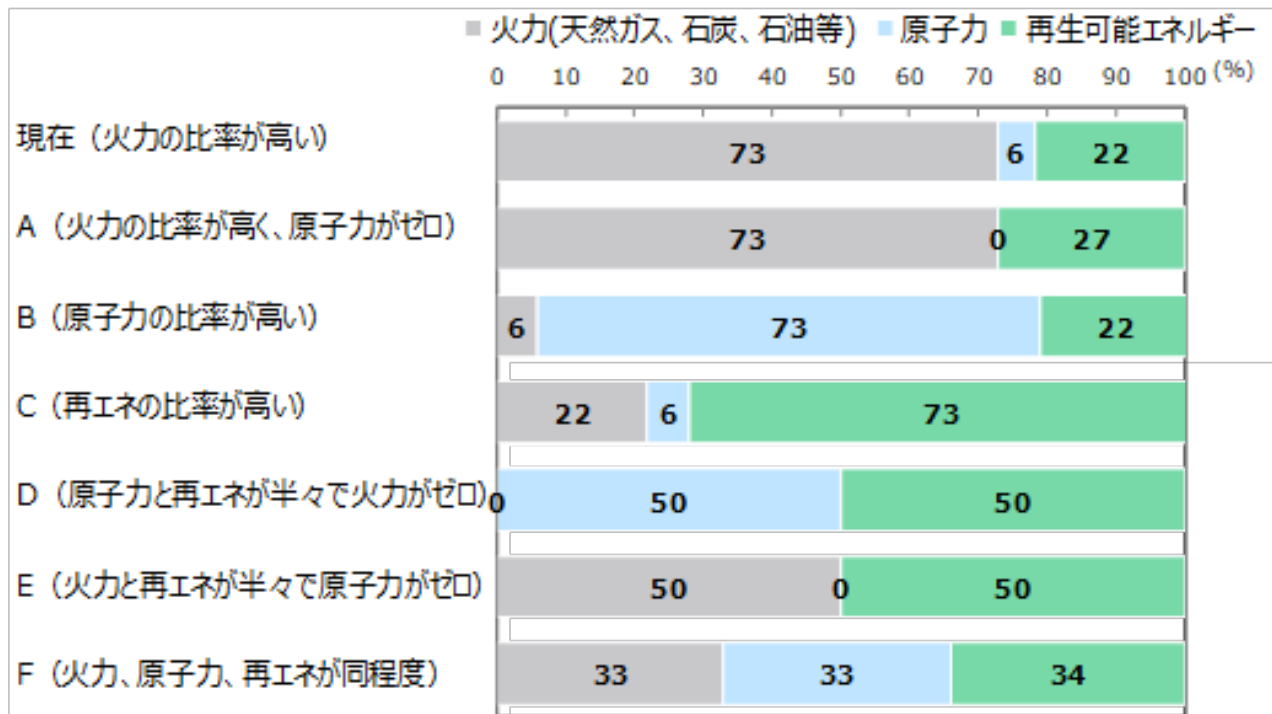


環境問題への対策を訴えるデモの主催・参加など、直接行動する



提示文章

エネルギーについてお聞きします。現在の日本国内の発電方法の組み合わせは次の図表に記載の通りです。



※再エネ：再生可能エネルギーの略称

理想のエネルギー構成

今後の日本国内の発電方法において、もっとも理想的だと思う組み合わせとしては、「再エネの比率が高い」を選んだ人が男女とももっとも多く、3割前後となった。

質問24：今後の日本国内の発電方法において、もっとも理想的だと思う組み合わせを選んでください。（単一回答）

現在：火力の比率が高い

A：火力の比率が高く、原子力がゼロ

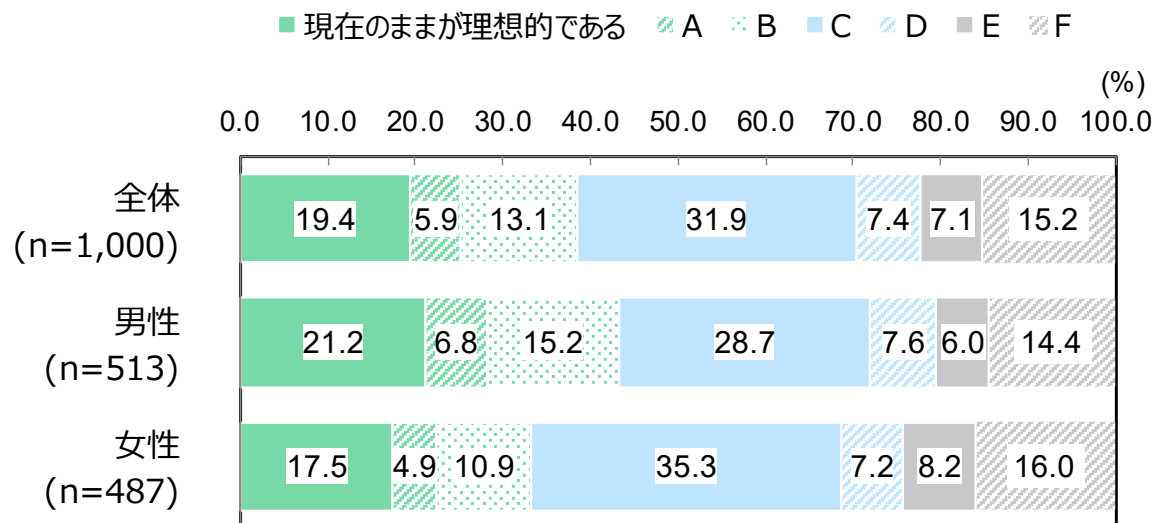
B：原子力の比率が高い

C：再エネの比率が高い

D：原子力と再エネが半々で火力がゼロ

E：火力と再エネが半々で原子力がゼロ

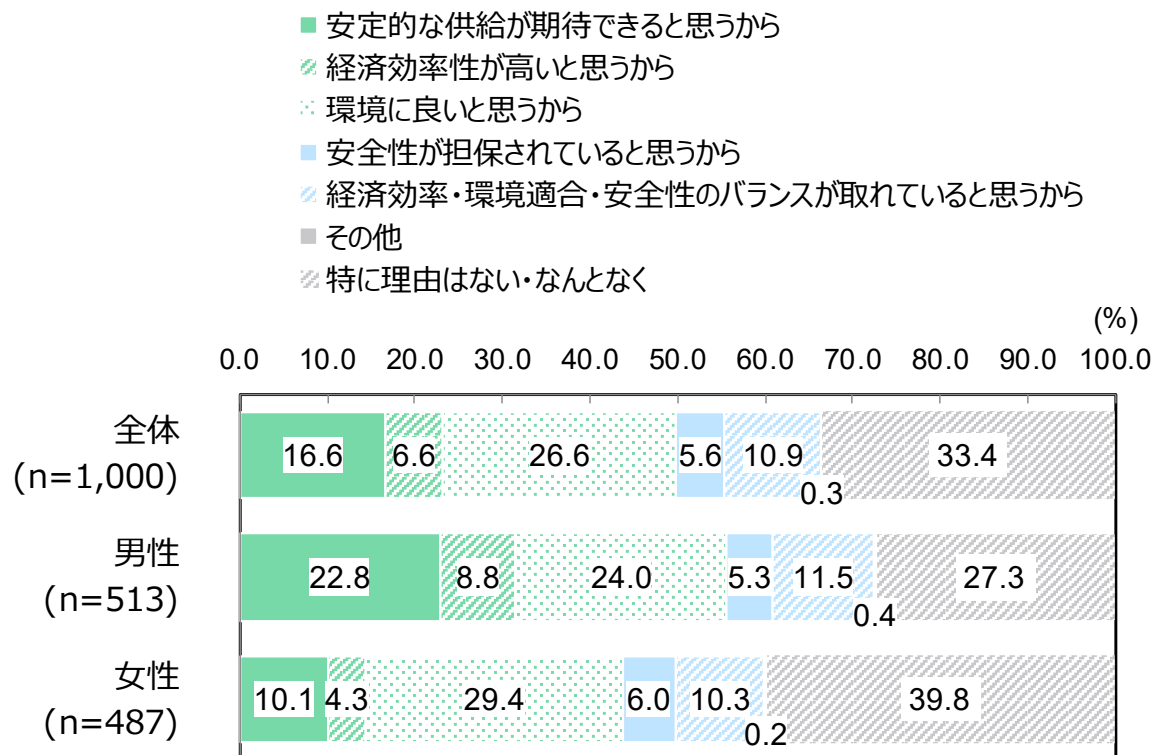
F：火力、原子力、再エネが同程度



理想のエネルギー構成を選んだ背景

理想のエネルギー構成を選んだ背景としては、具体的な理由を選んだ人の中では「環境に良いと思うから」が男女とももっとも多い。男性では「安定的な供給が期待できると思うから」、女性では「経済効率・環境適合・安全性のバランスが取れていると思うから」が続く。

質問25：前問の回答を選んだ背景として、もっともあてはまるものを教えてください。
(単一回答)



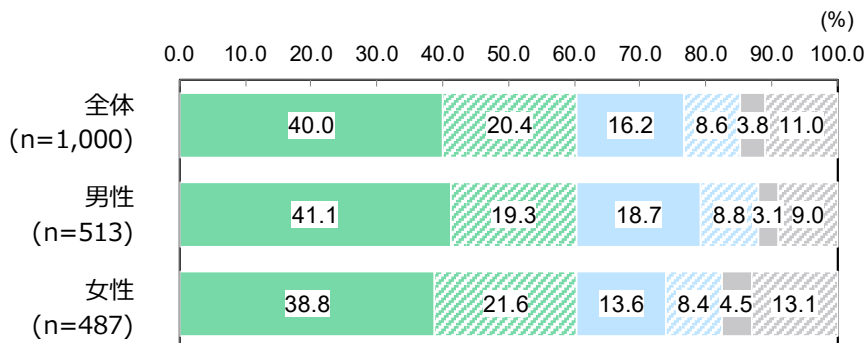
環境問題解決につながる 商品・サービスの購買意向

環境問題の解決につながる商品・サービスの価格受容性を聞いた。食べ物やファッション・コスメ・美容では、全体の約6割が、そうでないものと比べて価格が高くても、環境問題の解決につながる商品・サービスを選ぶ、と回答している。

質問26：環境問題の解決につながる商品・サービスとそうでない商品・サービスがあったとします。後者の価格を100とした場合、環境問題の解決につながる商品・サービスはどの程度の価格であれば購入しますか。（それぞれに対して単一回答）

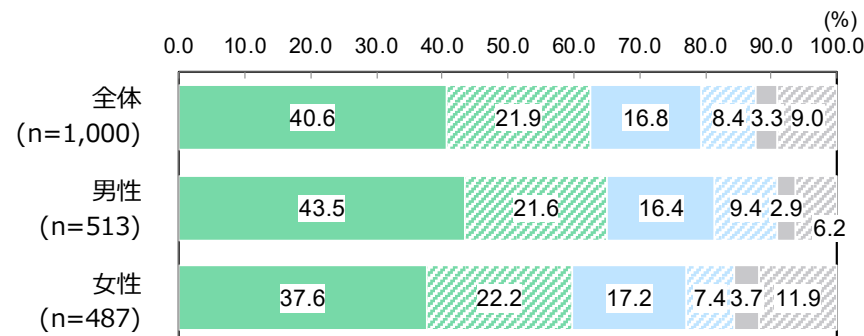
食べ物

- 100、または100より安い場合のみ選ぶと思う
- ▨ 価格が5%程度上がっても選ぶと思う
- 価格が10%程度上がっても選ぶと思う
- ▨ 価格が20%程度上がっても選ぶと思う
- 価格が50%程度上がっても選ぶと思う
- ▨ 価格が100%以上（2倍以上に）上がっても選ぶと思う



ファッション・コスメ・美容

- 100、または100より安い場合のみ選ぶと思う
- ▨ 価格が5%程度上がっても選ぶと思う
- 価格が10%程度上がっても選ぶと思う
- ▨ 価格が20%程度上がっても選ぶと思う
- 価格が50%程度上がっても選ぶと思う
- ▨ 価格が100%以上（2倍以上に）上がっても選ぶと思う



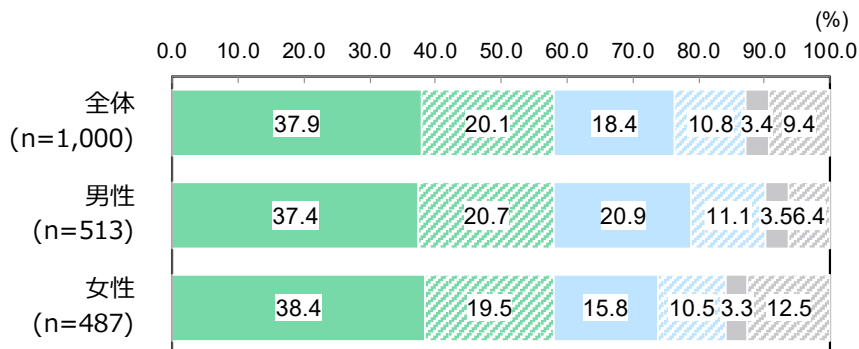
環境問題解決につながる 商品・サービスの購買意向

同じ質問で、電子機器（スマートフォン、タブレットなど）や電力では、そうでないものと比べて価格が高くて、環境問題の解決につながる商品・サービスを選ぶ、と回答している人がさらに多い。

質問26：環境問題の解決につながる商品・サービスとそうでない商品・サービスがあったとします。後者の価格を100とした場合、環境問題の解決につながる商品・サービスはどの程度の価格であれば購入しますか。（それぞれに対して単一回答）

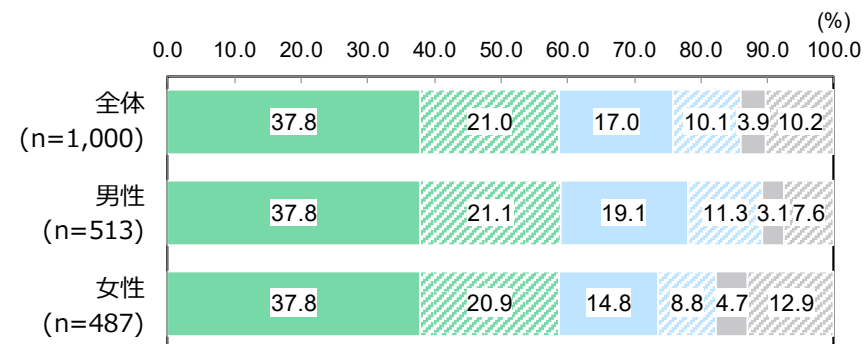
電子機器（スマートフォン、タブレットなど）

- 100、または100より安い場合のみ選ぶと思う
- ▨ 価格が5%程度上がっても選ぶと思う
- 価格が10%程度上がっても選ぶと思う
- ▨ 価格が20%程度上がっても選ぶと思う
- 価格が50%程度上がっても選ぶと思う
- ▨ 価格が100%以上（2倍以上）上がっても選ぶと思う



電力

- 100、または100より安い場合のみ選ぶと思う
- ▨ 価格が5%程度上がっても選ぶと思う
- 価格が10%程度上がっても選ぶと思う
- ▨ 価格が20%程度上がっても選ぶと思う
- 価格が50%程度上がっても選ぶと思う
- ▨ 価格が100%以上（2倍以上）上がっても選ぶと思う



第68回18歳意識調査「環境」 示唆



議論や意見表明 の訓練の必要性

- 環境問題について学習した経験の程度別にみると、学習した経験の認識があるほど、「どちらでもない」や「わからない/回答しない」とした人が少ない。
- 環境問題に関する行動や方法について、デモの主催・参加、署名活動、新聞等への投書やSNSでの発信、不買運動など、自分の意見を表明することが有効ではないと考える人が4割以上存在する。
- 様々な情報に触れ、自分なりに考え、他の人と議論する経験を通じて、社会課題を自分事と捉え、議論に参加していく態度をもった人を育てることが、より良い社会を創っていくうえでは重要ではないか。若者も含めて社会課題を議論し、解決に向けた取り組みを進める社会の土壌を創っていくことが重要である。



環境配慮型消費 の増加に向けて

- 現在の消費税程度（10%程度）までであれば、そうでないものと比べて価格が高くても、環境問題の解決につながる商品・サービスを選ぶ、と回答した人が合わせて4割近く存在する。他方、動物福祉に配慮した製品の購入やフェアトレード製品の購入などは、「ほとんど行っていない」と回答した人が4割以上にのぼる。
- これらの調査結果から、若者には環境配慮型消費の素地はあると推測される。彼らは今後の社会で主な消費者となっていくため、その姿勢を行動に繋げるためのきっかけを社会全体で提供することが、日本における環境配慮型消費の拡大につながるのではないか。